

第 二 幕

円天井高く、狭くるしきゴシック風の部屋

曾てファウストの居たる所。変われるところなし。

メフィストーフェレス

(懸け幕の背後より立ち出づ。彼がこれを拵(かか)げて顧みるとき、
ひとは古めかしき床に身を横たえるファウストを見る)。

其処に寝ておれ、不運者奴、解きにくい
恋の絆に誘い込まれた男奴！

ヘレナの魔睡にかかった者は、
容易に正気には帰られないぞ。

(四辺を見廻しつつ)

上を見上げて、こちらへ眼をやり、あちらへ眼を遣つても、
まるで変わっては居らぬ、損しても居らぬ。
成程、あの色硝子は前より曇ったようだ、
蜘蛛の巣は殖えている。

いんきは凝り固まって、紙は黄色になった。

だが、みんなもとの場処に置かれた儘だ。

あの筆までがまだここにある、
ファウストは悪魔に身を売る証文をこれで書いたのだったが。

そうだ！軸の奥深く詰まっているのは、
俺が彼奴からおびき取った血の一滴だ。

こういう無類の珍品を護るよう、
大蒐集家の幸福を願って置こうか。

あの古い裘(けごろも)までが古い鉤にかかっている、
思い出すのはあの時の悪戯だ、

あのとき俺は小僧に教えてやったのだが、
彼奴は青年になってもまだそれにかかずらって居るかも知れぬ。

あの洒落気が実際又きざして来るぞ、
もじゃもじゃと温(ぬく)い皮囊(ふくろ)よ、お前と連盟して、
大学教師になって、世間でそれを当然至極と心得ているように、
もう一度威張ってやろうという気が。

学者ならそれをいい気持にやらかすだろう、
悪魔にはとうの昔に過ぎたことだて。

(彼、取り卸したる裘を振るえば、飛蝗(ばった)、甲虫、蛾など飛び出ず)。

昆虫の合唱

よくぞ来し！よくぞ来し、

御身、古きパトロン！

我等飛び且つ唸(うな)り、
夙(はや)くより君を知れり。

一つ一つひそやかに

君、われ等を植えましぬ。

百千々(ももちち)の群れなして我等来る、

父よ、踊りつつ。

胸に棲む悪戯(いたずら)者は

あくまでも身を隠す、

裘(けごろも)の蝨(しらみ)こそ

たわやすく這い出ずれ。

メフィストーフェレス

この若い造られ物は、如何にも嬉しく俺を驚かすなあ！

人は構わず蒔いて置くがいい、時が来れば取り入れが出来るのだ。
俺はもう一度古い粗毛衣(あらげごろも)を振って見る、
まだ一匹ぐらいつつ其処此处からひらひら飛び出すわい。----
飛び上がれ！這い廻れ！千百の隅々へ
急いで行って隠れおれ、愛(う)い奴等(やつども)。
彼処、古箱の置いてある処へも、
此処、茶色になった羊皮紙文書の中へも、
あの髑髏のうつろな眼へも。
こういう腐物と黴との世界には
永遠に気まぐれ虫がいなくてはならんのだ。
(裘(けごろも)の中に身をくるむ)
さあ来い、俺の肩をもう一度包んでくれ！
今日は、俺はまた主人公だぞ。
だが、自分をそう名乗って見たところで仕ようがないなあ、
俺を認めてくれる人間どもは何処にいるのだ！
(彼鈴索を引く。鈴はけたたましく耳に徹する音を発す。
これによりて堂震い、扉開く)。

助 手

(長き暗き廊下をよろめき来る)。
何という響きだ！何という降(ふ)り物だ！
段階がぐらつく、壁が震動する。
色硝子の震える窓から
稲光のぴかぴかするのが見える。
たたきが亀裂(ひびわ)れる、上からは
石灰や土くれが剥がれて降って来る。
そうして堅く門(かんぬき)をかけて置いた扉は
不思議な力のせいであいてしまった。----
ああ彼処に！気味が悪いったら！一人の巨人が
ファウスト先生の古毛衣を着て立っている！
あの眼付きやあの眼配せに逢ったら
こっちは膝をついて倒れてしまいそうだ。
逃げたらよかろうか？立っていたらよかろうか？
ああ、僕はどうなることだろうなあ！

メフィストーフェレス(眼配せしつつ)

友よ、来たまえ！----君の名はニコデームスだね。

助 手

大先生様、私の名はそう申します----オレームス。

メフィストーフェレス

御祈りはよそうよ！

助 手

何て嬉しいでしょう！私の名を御存じなのは。

メフィストーフェレス

知っているとも、年をとってもまだ学生なんでしょう、
苔の生えた先生！学者という者も亦
そういう風に勉強を続けて行くものだ、他(ほか)に仕ようがないからね。
そんなわけで人は小ぢんまりした骨牌(かるた)の家を建てる、
最も偉大な頭だってすっかりそれを建てあげるとまでは行きかねる。

併し君の先生は、あれは熟練の士だよ----
すばらしいヴァーグナー博士を知らぬ者が何処にあらう。
今の学術界に於ける第一人者を！
学会の柱石となって、日毎に
人智を増進する者はあの人一人だ。
智識慾の熾(さか)んな傾聴者や聴講者は
あの人のおまわりにお束をなして集まって来る。
あの人だけが講壇の上から光彩を放っている、
聖ペーターのように鍵を使って
上をも下をもあの人はおあける。
あの人がお群れを抜いて光り輝いて居るので、
どんな名声も、どんな栄誉も太刀打ちが出来ない。
ファウスト先生の名さえも影が薄くなっている。
独創のあるのはあの人だけだからね。

助 手

大先生様！御免下さいまし！私は貴君に申し上げますが、
御言葉を返すようで恐縮ですが、----
今おっしゃったようなことは、すべて問題にはならないのです。
謙虚があの方の天与のわけ前でございます。
前の大先生の不可解な失踪を
あの方はあきらめ兼ねて、
そのお帰りを、慰めとも福(さいわい)とも思ひ願っていらっしゃいます。
お部屋はファウスト博士お出の日と同じように、
まだ手も触れずに、見えなくなられたその日から、
旧主人のお帰りを待ち設けて居ります。
私なんぞは、思ひきってお部屋へは行って行く程の思ひきった真似は出来ません。
一体星廻りの時間は何時(どき)でございましょう？
私には壁も物怖じしているように見える。
戸口の柱も震えました、門も跳ねて開きました、
それでなければ貴方もおはいりになれなかったでしょう。

メフィストーフェレス

先生は何処へもぐり込まれた？
わしを連れて行くか、先生を連れて来るかしたまえ。

助 手

ああ！先生のお誠(いまし)めが非常に厳しいのです。
そんなことをして好いものか、私にはわかりません。
幾箇月となく、大きなお仕事のために、
先生は静かな上にも静かに暮らして居られます。
学者のうちでも最も華奢な方が、
炭焼き男のような恰好をして、
耳から鼻まで真っ黒になり、
お眼は火を吹くために赤くなって、
一瞬間毎に成果を待ち兼ねていらっしゃるのです。
火箸のちゃらちゃらが即ち音楽です。

メフィストーフェレス

わしがおはいるのを拒みなさる訳があらうか？
わしは先生の成功を早めて上げる人間だよ。
(助手退場。メフィストーフェレス重々しく腰を卸す)。
俺が此処で席に着くと早速

あの奥の方に顔馴染みの客がやって来る。
併し奴、今度は最新派になっているから、
際限もなくつけ上がることだろうて。

得業士(廊下を早駆けに駆け来る)。

門も扉もあいているな！
これで漸く望みが持てることになったわい、
今度こそこれまでのように、黴の中で
生きた人間が死人同様
いじけて行き、腐って行き、
生きながら死ぬということがなくなるだろう。

この塀も、この壁も、
傾いて、崩れてしまいそうだ。
俺達もすぐに逃げ出さないと、
崩壊の下敷きにされてしまうだろう。
俺はどんな野郎よりも大胆だが、
何とと言われてもこれより奥へははいらない。

所で、今日は妙な目に逢うぞ！
此处こそ、何年か前に、この俺が
びくびくもので、小さくなって
お人よしの新入生でやって来た所じゃないか？
あの髯親爺どもに信頼を寄せて、
奴等の寝言を有り難がったのが此处だ。

厚皮表紙の古臭い本の中から、
奴等は、自分の知っていることを、
知っていても自分で信じないことを、
騙してきかせて、自分からも俺からも生活を奪いおった。
おや？ ---あの奥の小部屋の中に
まだ一人座っていやがるな、光を含む影に！

近寄って見ると驚いたわけだ、
奴、まだあの茶色の裘(けごろも)を着て座っていやがる。
ほんに、俺達が別れた時のままで、
まだ粗毛(あらげ)の毛衣にくるまっているとは！
あの時には彼(あれ)もわかった奴に見えた、
俺には奴がまだ攫(つか)めなかったからな。
今日はその手じゃ役に立たんぞ、
真っ直ぐに彼奴にぶっつかってやれ！

老先輩、もしレーテの濁った河水が
その俯向いた禿げ頭を浸しきっていないんなら、
此处に昔の学生が来ていることを、理解ある眼で御覧下さい、
大学の鞭なんぞはとっくに抜けて来ていますぜ。
貴方は昔拝見した儘の貴方でいらっしゃる！
僕は別人になって又帰って来ました。

メフィストーフェレス

呼び鈴を鳴らして君を呼び寄せたのはいいことだったね。
あの時分も君を軽く踏んではいなかった。
もう毛虫の時でも蛹(さなぎ)の時でも、行々(ゆくゆく)は

色美しい蝶々になることがわかるからね。
捲き毛の髪や笹縁飾りの襟に
君は子供らしい嬉しさを感じていたっけ。----
君は一度も弁髪はつけなかったのかい？----
今日は瑞典(スウェーデン)式散髪という奴を拝見するね、
君は如何にもてきばきと元気らしく見受けられるが、
ただ絶対家になってうちへ帰ってはいけませんぜ。

得業士

ねえ、老先輩！僕達は昔の場処にいるには違いないが、
でも新しい時代の推移を考えて、
一語両義の言葉は控えて下さい。
僕達の物の聴き方はまるで変わってしまいましたよ。
貴君は善良な、生真面目な子供を馬鹿にされた、
それが貴君には技巧を用いずに成功した、
きょう日はもう誰もそんなことを敢えてする者は居やしません。

メフィストーフェレス

若い者に雑じり気なしの真理を言って聴かせると、
それは吻(くちびる)の黄色い手合いには決して気に入らない。
併しその手合いが、段々年を経て、
自分の身の皮に痛い目を見てそれがみんなわかって来ると、
今度はそれが自分の脳天から出たように自惚れる。
其処でこんなことを言うのだて----あの先生は馬鹿だった、などと。

得業士

多分、横着者だったと！なぜなら、凡そどんな教師が
真実をまっすぐに僕達の顔にぶっつけて言ってくれるでしょう？
どの教師だって、足して見たり、引いて見たり、
真面目臭ったり、伶俐に愛嬌を振り蒔いたりして、本気な子供を扱うのです。

メフィストーフェレス

学ぶには勿論時がある、
教えるつもりで君はいるらしく見えるね。
大分月もたったし、幾つかの年も重ねたから、
君はきっとたっぷり経験を積んで来ただろうね。

得業士

経験の類(たぐい)か！泡沫です！塵埃です！
精神とは較べ物になりません。
白状しちゃいなさい！人がこれまで知って来たことで、
知るに価いすることなんてまるっきりないでしょう.....

メフィストーフェレス(間を置きて)

とうからそう思っていた。わしは馬鹿者だったなあ、
今になって、わしは自分が浅薄に愚かに見えてならんよ。

得業士

それは素的に嬉しいなあ！僕は兎に角悟性の壁を其処に聞くね。
僕が理性的だと認めた最初の老人だ！

メフィストーフェレス

わしは隠れた黄金の宝を捜して、

不気味な炭を持って帰ったのだったねえ。

得業士

白状しちゃいなさいよ、貴方の頭蓋骨、自分の禿げ頭は
彼処にある髑髏(しゃれこうべ)以上の価値がないでしょう？

メフィストフェレス(機嫌よく)。

友よ、君がどれほど粗暴だか、自分でもわかるまいね？

得業士

独逸人仲間では、慇懃にするのは嘘をつくことです。

メフィストフェレス

(その座せる車椅子を次第に前舞台へ近づけ、平土間に向かいて)。
この高い所では、光も空気も奪われてしまいます。
貴方方の御仲間へ入れては下さらないでしょうか？

得業士

僕は僭越だと思えますね、最も悪い時節になって、
もう何物でもなくなっているのに、まだ何かである積もりでいるのは。
人間の生命は血の中にある。そうして何処に
青年の体のように血が活潑に循(めぐ)っているものがありますか？
新鮮な力を持つ生きた血こそ、
生命(いのち)の中から又新しい生命を創るのです。
其処で凡てが活動し、何事かがなされ、
弱きは倒れ、優れたるは進み出る。
我々が世界の半分を獲得する間
貴君方は何を仕遂げました？こくりこくりやったり、物思いに耽ったり、
夢を見たり、計画倒れの計画をいろいろと思案して見たりでしょう。
全くだ！老年は冷たい熱病で、
むら気の悩みで悪寒がするのです。
人間は三十を越してしまえば、
もう死んだも同様ですね、
貴君方は、時を過たず叩き殺すのが一等いいでしょうな。

メフィストフェレス

こうなると、悪魔も今更言い足すべきことがあるまい。

得業士

僕がそれを意欲しなければ、凡そ悪魔はあり得ない。

メフィストフェレス(傍らを向きて)。

近いうちに悪魔が、お前に足掬いを喰らわせるぞ。

得業士

これが青年の最も気高い天職です！
世界は、僕が創る前には存在しなかった。
太陽は僕が導いて海から上がらせた。
僕と一緒に、月は盈欠(えいけつ)の歩みを始めた。
昼は僕の行く路に自ら粧(よそお)い、
地は僕を迎えて、緑し、花咲く。
僕の眼配せによって、あの開闢(かいびやく)の夜に、
あらゆる星が壮嚴に輝き始めた。

僕でなくて誰が貴君方を解放して、俗人じみた、
狭っ苦しい思想の一切の埒(らち)を脱却させたのです？
僕その人は、自由に、霊性がうちに語るままに、
楽しんで我が内なる光を追い、
較ぶるものなき歓喜のうちに、身も軽々と進んで行きます。
光明を前にし、闇黒を背にして。(退場)。

メフィストーフェレス

独創自慢奴！えら者の積もりでそのまま進んで見い！----
こういうことがわかったら、お前はどんなにか悲観するだろうなあ----
馬鹿なことでも賢いことでも、昔の人が、
曾て考えたことのないことを、誰が考え出すことが出来るものか？----
とは云え、あんな奴がいたって我々は別に脅かされはせぬ、
少し年が経つうちに、彼奴は別人になってしまうだろう----
葡萄の液がどんなに理屈に合わぬ泡を立てるにしろ、
それはしまいにはとにかく葡萄酒になる。
(喝采せぬ平土間の少壮者に)。
貴君方はわしがああ云っても冷然として居ますね、
好い兄の貴君方のことだから、見逃してあげましょう。
覚えてお置きなさいよ----悪魔は年寄りだ、
悪魔を理解したくば、年寄りになるが好い！

~~~~~  
中世流の実験室。空想的なる目的に用いる、  
繁縷(はんじょく)、痴重(ちちょう)なる器械ども。

#### ヴァーグナー(竈(かまど)の傍にて)

鈴の音が恐ろしく響いて、  
この煤けた壁を震え渡らせる。  
もうこれ以上、最も真剣に期待している事の  
定かならぬ成否が決せられずにはいまい。  
もう闇黒がおのずから明るく澄んで来る。  
もうふらすこの一番心のところが  
生(いのち)ある炭(たん)のように赫灼(かくしゃく)とする、  
いや、最も美しい紅玉のように、  
闇を貫いて電光を走らせる。  
や。明るい一道の白光が現れるな！  
ああ、今度こそ逃がしたくないものだ！----  
困るな！戸をがたがた云わせるのは何だ！

#### メフィストーフェレス(入り来る)。

よく来ました！お為になろうと思って。

#### ヴァーグナー(懸念らしく)。

ようお出でと言いましよう、この時刻の星に！  
(小声にて)

でも、言葉も息も口の中でしっかりと殺していて下さい。  
非常な仕事がすぐに出来上がります。

#### メフィストーフェレス(一層小声にて)

何事ですか？

#### ヴァーグナー(愈々小声にて)

人間が一人搾えられるのです。

## メフィストーフェレス

人間が一人？そうしてどんな恋人同志を  
貴君はその烟(けむ)たい穴へ閉じ籠めたのですか？

## ヴァーグナー

飛んでもない！これまで流行っていた拵え方は  
私共は下らぬ道化芝居だと申し渡すのです。  
生(いのち)が其処から飛び出して来たあの微妙な点ですね、  
内から迫り出でて、取ったり遣ったりして、  
自分自身の姿を刻んで、先ず身近なものを、  
次には縁遠いものを取り込むように定められた、あの嬉しい力ですね、  
あれはもうその尊厳を奪われたのです。  
よしや動物はこの先もあんなことを楽しむにせよ、  
人間は大なる天賦を持っているのですから、  
これからはもっと高尚な、高尚な出所(でどころ)を持たなくてはなりません。  
(竈の方に向かいて)。

光るな！御覧なさい！----これで実際、見込みが立った、  
何百とない物質を調合して  
----調合の仕方が大切ですよ----  
人間素をゆっくりと組み立てて、  
瓶に入れて密封して、  
適当に蒸して澄(す)ますと、  
それで仕事が人知れず出来てしまうのです。

(竈の方に向かいて)  
さあ出来る！塊が動いて澄み勝(まさ)って来る、  
確信が益々固く、固くなって行く----  
人が自然の秘密を称(たた)えたことを、  
我々は敢えて悟性で験して見る、  
そうしてこれまでは自然が有機的に成らせたものを、  
それを我々は結晶させる。

## メフィストーフェレス

長生する人はいろいろのことを経験するもので、  
その目で見ると、此の世界には新しいことは一つも起こり得ない。  
私は私の遍歴時代に、もう  
結晶した人間族を見て来ましたよ。

## ヴァーグナー

(それまで絶えずふらすこに注目し続く)。  
昇る。光を放つ。大きく積もって来る。  
もう一寸でそれは出来上がってしまう。  
遠大な企ては、始めは気違いじみて見えるものだ。  
併しこれから我々は偶然を笑ってやろうと思う。  
そうして優れて思索力のある脳髓をも、  
将来は思索家が造ることになろう。  
(ほればれとふらすこを凝視しつつ)。  
硝子が優しい力に促されて響きを立てる。  
又濁る、又澄んで来る。これできっと出来上がりだ！  
見れば、いたいけな姿をして、  
可哀い小人間が妙な恰好に動いている。  
此の上我々は何を望もう、世界も何の望むべきことがあろう？  
秘密は白日のもとに曝されたのだ。

まああの音に耳を傾けて御覧なさい、  
それは人声になる、言葉になる。

ホムンクルス(ふらすこの中にてヴァーグナーに)。  
ねえ、おとうちゃん、いかがです？あれは笑談じゃありませんでしたね。  
さあ、僕を心(しん)から優しく貴方の胸におしつけて頂戴、  
でも、あんまりきつくしちゃいけません、硝子が毀れると困りますから。  
物事の性(しょう)は一体こうしたものです---  
自然なものには宇宙も狭い、  
人工のものは、仕切られた空間を欲しがる。  
(メフィストーフェレスに向いて)  
ところで貴君。悪戯っ子の従兄(にい)さん、貴君も此処に来たのですか？  
丁度いい瞬間でしたね。有難う。  
いい廻り合わせが貴君を僕達のところへ連れて来てくれたのですね。  
僕も在る者になって見れば、やっぱり働かなくてはなりません。  
僕はすぐに腕まくりをして仕事にとりかかりたい。  
貴君はわかった方です、僕の道をまっすぐにつけて下さい。

ヴァーグナー

その前に一言(こと)いわしてくれ！これまで俺は恥ずかしい思いをしなくてはならなかった、  
年寄りも若いのも、いろんな問題を持っては俺に押しかけて来るからね。  
一寸一例をいえば---これまで誰一人会得し得なかったことだが、  
霊魂と肉体とはあんなに旨く適合して、  
あんなに鞏(かた)く、決して離れぬように結び合っているのに、  
いつもいつもお互いに苦しめ合っているのはどうしたものだろうね。  
それから---

メフィストーフェレス

御待ちなさい！わしなら一そう問いたいですね---  
なぜ男と女とはこんなに仲が悪いかと。  
友よ、貴君には此の点をはっきりさせることがとても出来ないでしょう。  
此処になすべきことがある、丁度それをこの小さいのが遣るでしょう。

ホムンクルス

なすべきことってなに？

メフィストーフェレス

(脇扉(わきど)を指しつつ)  
此処でお前の腕を見せてくれ！

ヴァーグナー(絶えずふらすこを凝視しつつ)

本当に、お前は愛くるしい男の子だなあ！  
(脇扉おのずから開く。ファウストの寝台の上に身を横たえたるが見ゆ)。

ホムンクルス

素的だぞ！---  
(ふらすこヴァーグナーの手よりすり脱け、  
ファウストの上に漂いて彼を照らす)  
周囲(まわり)の美しいこと！木立の茂った森の中の  
澄み渡った水、着物を脱いでいる女達、  
とても可哀らしい人達だなあ！---益々面白くなって来るぞ。  
でも一人だけが他(ほか)に飛び抜けて輝いている、

第一等の英雄の血筋か、若しかもすると神々の血筋かも知れぬ。  
その人は足を透き通る清水の中に漬ける。  
気高い体(からだ)の心憎い生(いのち)の焰が  
さざ波のしなやかな水晶の中で冷やされる。----  
ところが、惶(あわただ)しい羽搏(はばたき)の、何という騒音だろう、  
何というざわざわの響きばちゃばちゃの音が滑らかな水鏡を  
搔乱(そうらん)することだろう？  
少女(おとめ)達は物怖(ものおじ)して逃げる。併しただ一人  
女王は、落ち着いてそれを眺めて、  
誇りある、女らしい、楽しい心で、  
鵠(くぐい)の王が、押しの強い馴々しきで、自分の膝に擦り寄るの  
を見ていられる。鳥は狎(な)れるらしい。----  
併し急に靄(もろ)が立ちのぼって、  
細かに織った羅(うすもの)の奥に、  
類(たぐい)なく優しい場面を隠す。

#### メフィストーフェレス

よくもまあ、そんなに沢山話すことがあるなあ！  
お前は本当に小さいが、空想家としては大きいぞ。  
俺にはなんにも見えやせん----

#### ホムンクルス

そうでしょうとも。貴君なんか、北方生まれで、  
人となったのが霧深い時代で、  
騎士制度や坊主増長の中なのですから、  
どうして自由な眼があくものですか！  
貴君が我が家顔に振る舞えるのは、陰気な処に限りますよ。  
(あたりを見廻して)。  
茶色になった石造りが、黴だらけで、吐き気を誘って、  
迫持(せりもち)が尖って、にょろよろ縛(くど)くて、低いと来ている！----  
此处で此の人が眼を醒ますと、新たな難儀が起こりますぜ、  
すぐに此の場で死骸になってしましましょう。  
森中(もりなか)の泉、鵠(くぐい)、裸形の美人達、  
それが此の人の末頼(すえより)もしい夢でした。  
それがどうしてこんな処に馴染めましょう！  
誰より身軽な私でさえ、これではとても堪りますまい。  
さあ此の人を連れて行きましょう。

#### メフィストーフェレス

その算段は面白そうだな。

#### ホムンクルス

軍人を軍に遣るんなら、  
娘は踊りへ連れて行きなさい、  
それですぐに万事かたがつきます。  
一寸考えて見たのですが、今は丁度  
古典のヴァルプールギスの夜祭りです。  
何よりもいい折りにぶつかったわけですね。  
この人を性(しょう)に合った水へ連れて行ってお上げなさいよ！

#### メフィストーフェレス

そんな御祭りのことはこれまでついぞ聞いたことがない。

### ホムンクルス

どうしてそれが貴君の耳にはいるものですか？  
貴君の知っているのは浪漫的(ロマンティツシエ)の化物だけです、  
本物のお化けは、矢張り古典的(クラツシッシェ)でなくてははいけません。

### メフィストーフェレス

それにしても舟をどの方角へ動かすことにするのだ？  
古代めかした同僚は聞いただけでも胸が悪くなるて。

### ホムンクルス

魔王さん、西北が貴君の遊樂の縄張りですね、  
ところが此の度は、東南へ我々の帆を向けるのです----  
広い平野に沿うてペナイオス河がゆったりと流れ、  
藪に囲まれ、木立に囲まれて、末は静かな、湯気の多い入江をなしている。  
平原は延びて山間(やまあい)の谷に連なり、  
そうして上には新旧二つのファルザルスがある。

### メフィストーフェレス

いやだなあ！御免だなあ！あんな  
暴君主義と奴隷根性との争いなんぞは見たくもない。  
あんなことは俺には退屈でならぬ、やっと済んだかと思うと  
又蒔き直しに始めるのだからな。  
そうして、それはただ、背後(うしろ)に隠れているアスモデウスに  
調戯(からか)われるのだということは、誰も気がつかない。  
自由の権利の為に戦うというのは、ただふれ込みで、  
詳しく見れば、奴隷が奴隷と争っているのだ。

### ホムンクルス

人間の喧嘩好きな性分は見逃しておやんなさい、  
誰でも力限りに自分を防禦しなくてはならないし、  
而もそれは子供の時分からのことで、それで漸く人になるのですから。  
今の問題はそれじゃない、只此の男をどうして癒やそうかというだけです。  
貴君に方(ほう)があるなら、此処で験して御覧なさい、  
それが出来なければ僕にお任せなさい。

### メフィストーフェレス

ブロッケンの趣向には随分験してよさそうなものもあるが、  
異教徒の門は俺には鎖(さ)されているからな。  
あの希臘民族というのは一度も碌に役に立ったことのない奴だ！  
それでも自由な官能の戯れでお前達に眼くらがしを喰らわせて、  
人間の胸を朗らかな罪惡に誘い込むようなことはする、  
それでこっちの方は益々陰気だと云われるのだろう。  
さて、其処でどうする？

### ホムンクルス

貴君は不断羞(はに)かみ屋ではありませんね。  
僕がテッサーリエンの魔女の話をしたら、  
僕は多少言い甲斐のあることを言ったのだと思いますがね。

### メフィストーフェレス(好色らしく)。

テッサーリエンの魔女だと！素的！それこそ  
僕が長年心にかけて問い合わせていた人間共だ。  
そいつ等と毎晩々々一緒に住むとなると、

好い心持ちだろうとは思われないが。  
でも御見舞なら！試みなら！

ホムンクルス

その外套をこちらへ。  
此の騎士に被せて遣りましょう！  
その布片(きれ)が、これまで同様、貴君方を、  
此人(こちら)も乗せ彼人(あちら)も乗せて運んでくれるでしょう。  
僕が前に立って燈(あかり)を見せます。

ヴァーグナー(氣遣わしげに)  
そうして俺は？

ホムンクルス

そうですねえ、  
貴君はうちに残って、一等重大な仕事をなさい。  
古い羊皮紙を繰りひろげて、  
方書(ほうがき)に従って生命元素を集めて、  
細心にこれとあれとを組み合わせて御覧なさい。  
何を、もお考えなさい。如何に、をそれ以上にお考えなさい。  
その間に僕は世界を少しばかり経廻って  
Iの字の上の小点を見付けましょう。  
そうすると大目的が達せられて、  
あれほどの努力にはこう云った酬(むく)いが授かるでしょう----  
黄金、名誉、高名、健康な長い命、  
それから知識と徳と----も事によったらばね。  
さようなら！

ヴァーグナー(黯然として)

さようなら！実に落胆(がっかり)させられるなあ、  
もう今から、お前に二度と逢えないような気がしてならない。

メフィストフェレス

さあ、すぐにペナイオス指して出かけよう、  
うちの小僧さんは仲々馬鹿にならないよ。  
(見物に向いて)  
とどのつまり我々は、自分で拵えた被造物に  
ひき廻されることになるのですね。

古典のヴァルプールギスの夜  
ファルザルスの野。闇。

エリヒト

これまでもう幾度もあったように、今夜の物凄い祭りに  
私は出かけます。エリヒトです、私です、陰鬱な女です。  
憎らしい詩人どもが度外れに悪く言う程に  
私は厭な女ではありません。.....詩人は褒めるにも責めるにも  
まるで止所(とめど)がないのです。.....谷を遙かに、  
灰色の天幕の波が白ちゃけて、もう見えて来る、  
世にも氣遣わしく、又恐ろしかったあの夜の残像なのです。  
もう幾度それが繰り返されたことでしょう！それは、いつまでもいつまでも  
永遠に互って繰り返されるのでしょう。.....誰でも国を他人の  
取るに任せる者なく、威力を以て獲て、力づくにこれを支配する者に

その権威を許すことは誰もしない。誰でも我が内心を支配することを知らぬ者は、我が儘な、驕(おご)った心のままに、隣人の意志を支配することを好みすぎるからだ。.....  
此処でその大きな実例となる戦いが決せられた---  
暴力がそれより強い暴力と対抗して、  
自由の、千百の花をつけた、なつかしい花環が引き裂かれた、  
剛(こわ)い月桂の枝が覇者の頭のめぐりに巻き附いた。  
こちらで大ポンペーユスが昔の偉大の花盛りの日を夢に見れば、  
揺れ定まらぬ、秤の針に耳傾けながら、ツェーザルが彼処で夜を徹した。  
優劣がきまろうとする。誰が勝ったかは世界が知っている。

篝火(かがりび)が紅の燄(ほのお)を立てながら燃える、  
大地の吐く息は灑(そそ)がれた血潮の映え返した。  
そうしてその夜の稀有なる不思議な赫光(かがやき)に誘われて、  
ヘラスの伝説に出る魔物の群れが集まって来る、  
どの火の周りにも、古への日の御話めいた姿が  
足取り怪しくよろめいたり、気楽に座っていたりする。.....  
月は、欠けながらも猶さやかに照りつつ、  
さし昇って来て、優しい光を到らぬ限なく行き互らせる。  
天幕の幻影は消え失せる、火は色青く燃えている。

や、私の頭の上に！何という思いがけぬ流星だろう？  
それは光って、体をなした球を照らしている。  
何だか生物(いきもの)臭い。生物に近づくのは  
私には似合わしからぬ業だ、生物は私に害を受ける。  
それは私の評判を悪くして、而も我身のためにもなんにもならない。  
もう降りて来る。私は用心して身をかかわすとしよう。(遠ざかる)。  
飛行者ども上にて。

#### ホムンクルス

もう一度輪を描いて浮いていましょう、  
火炎と凄惨との恐ろしさの上で。  
谷でも野でも、見るから  
化物臭過ぎますから。

#### メフィストフェレス

古ぼけた窓から、北国の  
ごたごたや凄さを覗く時と同様、  
ひどく厭ったらしいお化けどもが見える、  
お蔭で此処も彼処と変わらず、家(うち)にいる気がする。

#### ホムンクルス

御覧！ひよろ長い女が一人、大股に  
僕達の前をあちらへ歩いて行くでしょう。

#### メフィストフェレス

何か気になることがあるようじゃないか。  
俺達が虚空を飛んで来るのを見たのだろう。

#### ホムンクルス

行くに任してお置きなさい！あれを、  
貴君の騎士を、下にお卸しなさい、するとすぐに  
あの人には(いのち)が回って来るでしょう、

昔噺の国に生を求める人ですからね。

ファウスト(地に触れて)  
あの女は何処にいる？----

ホムンクルス  
わかりませんね。  
でも大抵此処できけるでしょう。  
夜が明ける前に大急ぎで、  
篝火から篝火へと探し廻って御覧なさい----  
母達のところへさえ出掛ける程の人には、  
その先怖いことなんぞなんにもないでしょう。

メフィストーフェレス  
僕にも此処で役目がありますがね。  
併し我々の福運の為に一等いいことは----  
銘々篝火伝いに、自分だけの  
冒険をやって見ることでしょうね。  
それから、あとで一緒になる相図には、  
おい、小さいの、お前の明(あかり)を音を立てて光らしてくれ。

ホムンクルス  
こんな風にぴかぴかさせましょう、鳴らしましょう。  
(硝子鳴り響きて烈しく光る)。  
さあ、新しい不思議を見に行きましょうか！(退場)。

ファウスト(一人にて)  
あの女は何処にいる！----差し当たり此の上問うのはよせ.....  
この土があの子を載せた土でなくとも、  
この波があの子を迎えて打ち寄せた波でなくとも、  
この空気はあの子の言葉を語った空気なのだ。  
此処へ！奇蹟によって、此処希臘の国へ！  
俺はすぐに、自分が立っている土地を感じた。  
眠っている俺を貫いて、新たに一つの霊が燃え立つままに、  
俺は心のうちで一人のアンテウスになって立っている。  
此処で奇怪至極なものが一緒になっているのに出逢うにしても、  
俺は真剣にこの焔の迷路を窮める積もりだ。  
(立ち去る)。

メフィストーフェレス(四辺を覗き廻りながら)。  
どうもこの篝火の間をふらついて通ると、  
俺がまるっきり他处者(よそもの)であることがわかる、  
殆どみんなが素っ裸で、ただちらほらと襦袢を着たのがいるだけだ。  
スフィンクスどもは恥知らずで、グライフどもは臆面なしだ。  
捲き毛なのや翼のあるのや、どいつもこいつも、  
前から見えたり尻から見えたり、眼に映って来やがる.....  
尤もこちとらだって腹の底から不行儀だが、  
それでも古代の奴と来ちゃあまりに潑刺とし過ぎると思うね。  
こんなのは最新の精神でこなして、  
色々様々に、流行式に上塗りをしなくてはなるまい.....  
たまらない人種だ！でも新参の客として  
礼儀正しく挨拶すること位は嫌ってもいられまいて.....  
御機嫌よう！美しい御婦人方、聡明な御老人方(グライゼン)。

グライフ(がらがら声にて)

Greisen(グライゼン)じゃない！ Greifen(グライフェン)だ！

----誰が聞くことを喜ぶものか、

Greis(グライス)[老人]なんて呼ばれるのを。どんな言葉にも、それが基づいている語源の響きが残る----

Grau(グラウ)、grämlich(グレームリヒ)、greisgram(グライスグラム)  
gräulich(グロイリヒ)、Gräber(グレーバー)、grimmig(グリンミヒ)  
[灰色の、怨めしき、気むずかしき、物凄き、墓ども、血に渴ける]  
など、語源学上声が通っているが、  
厭な気持ちを起こさせるね。

メフィストーフェレス

でも、横道は御預けとして、  
名誉称号 Greifen の Grei は御気に入るでしょう。

グライフ(同上、以下も同様)。

勿論！親類関係は調べ上げられている。  
実際、時には悪くも言われたが、褒められる方が多かったね。  
誰でも少女や王冠や黄金を求めてグライフする[手を出す]が好い、  
グライフする者に運の神様(フォルツーナ)は大抵御優しいのだ。

蟻 ども(巨大なる種類のもの)

黄金のお話をなさいますね、私達は沢山集めて、  
巖や洞穴(ほらあな)の中にそっと押し込んで置きました。  
アリマスペン族がそれを嗅ぎ出して、  
ずっと遠くへ運んで行って、彼処で笑っています。

グライフども

俺達がすぐに奴等を白状させてやる。

アリマスペン

ただ無礼講のお祭りの晩だけは免して貰いたいね。  
明日までにはみんな片付けてしまいます、  
今度はきっと旨く行くでしょう。

メフィストーフェレス

(スフィンクスどもの間に座を占め居る)。  
この場に馴れるのは如何にも楽で愉快だ、  
一人一人、俺にはみんなのみ込める。

スフィンクス

私達は霊の声を吐き出すのよ、  
それを貴君方が体を具えたものになさるのですわ。  
先ず御名前をおっしゃい、もっとお近付きになる前に。

メフィストーフェレス

いろんな名前をつけて、世間では私を呼んだ積もりでいますよ----  
此処に英吉利人は居ませんかね。あの連中は一体にひどく旅行好きで、  
古戦場だの瀑だの崩れた石垣だの  
古代めいた黴臭い処などを探し廻る。  
此処などは連中の立派な目的地になるのですがねえ。  
居れば証人にも立ってくれよう----が昔の舞台劇では

私は Old Iniquity という名で登場したものですよ。

スフィンクス

どうしてそういうことになったの？

メフィストーフェレス

自分でもなぜだかわからんのです。

スフィンクス

そうかも知れませんね！貴君、星のことはいくらか御存じ？  
只今の時刻をどう御覧になるの？

メフィストーフェレス(仰ぎ見つつ)。

星が星を追うて飛んでいる、欠けた月が明るく照らして居る、  
そうしてこの打ち解けた場所で私はいいい心持ちになって、  
貴女の獅子の皮で身を暖めて居る。  
高い処へ登り過ぎてまごつくのは損だろう。  
謎をおかけなさい、地口でも好い。

スフィンクス

御自分のことを口に出して言って御覧なさい、もうそれで謎になるでしょう、  
一度御自分を細かに解こうと試みて御覧なさい----  
「善人にも悪人にもひつようなもの、  
一方にとっては、慾を禁じて武を錬るための的となる胸甲(きょうこう)、  
他方にとっては、気違い沙汰を仕遂げるための相棒、  
そうしてどちらも只ツォイスの慰みのためにある」。

第一のグライフ(がらがら声にて)。

あいつは好かんな！

第二のグライフ(一層のがらがら声にて)。

あいつ我々にどうしようというんだ？

両 者

あんな穢(きたな)らしい奴は此処に居る筈の者じゃないな！

メフィストーフェレス(野獸的に)

お前は、お客様の爪が、お前の鋭い鉤爪(かぎつめ)ほど  
旨く引っ搔くことが出来ないように思っているらしいね！  
一度試して見ろ！

スフィンクス(柔和に)。

いつまでいらしても構わないわ、  
でも御自分で我々の中から逃げ出すでしょうね。  
お国では何かと面白くやってお出ででしょうが、  
御見受け申すところ、此処では気持がしっくりしないのでしょう。

メフィストーフェレス

貴女も上の方は、見る眼に如何にも旨そうだが、  
下の方へ行くと、獣身が不気味ですね。

スフィンクス

虚衝さん、ひどい罪滅ぼしをさせて上げるわよ、

私達の前蹠(まえあし)は病気じゃありませんからね。  
ちぢかまった馬の脚の貴君なんか、  
私達の仲間にて気持がいい筈がないわ。  
ジレーネども上にいて声を試み居る。

#### メフィストーフェレス

あの鳥どもは何だろう、河沿いに続く白楊(つげ)の  
枝の間に揺られているのは？

#### スフィンクス

よく御用心なさいよ！優れて立派な方でも  
ああいう歌声(うたごえ)には負かされたのですからね。

#### ジレーネ達

あわれ如何なれば狎れ染(し)み給う、  
醜く、怪(け)しき物のなかに！  
聴け、我等此处に群れなして来たり、  
調(ととの)いみじき声にて歌う、  
ジレーネの徒(とも)はかくぞあるべき。

#### スフィンクス達

(同じ節にて嘲りつつ)。  
鳥をば強いて降りて来させよ！  
そは枝の間に隠し持ちたり、  
角鷹(くまだか)なせる醜き爪を。  
君を襲いて害まつらむ、  
誤りて耳を藉(か)し給いなば。

#### ジレーネ達

な憎(にく)みそ！な妬(ねた)みそ！  
浄き限りの歎び集めむ、  
御空のもとにちりぼう限り！  
水の上にも、陸(くが)の上にも、  
いと晴れやかなる振る舞いあれや、  
まろうどに見せまつらむために。

#### メフィストーフェレス

これは結構な新手だわい、  
吭(のど)から出たり、絃(つる)から出たり、  
一つの音が他(ほか)の音と絢(な)い交ぜになって来やがる。  
この顫(ふる)え声は俺には利かんね。  
成程耳はこそばゆくなるが、  
心臓にまでは徹(とお)って来ない。

#### スフィンクス共

心臓なんて、およしなさいよ！そりゃ空言(そらごと)よ。  
皺くちゃになった革の財布、  
それがその顔に丁度のところよ。

#### ファウスト(歩み寄りつつ)。

実に驚くべきことだ！観照だけで満ち足りる、  
醜怪の中に、偉大な雄健な相が籠もっている。  
もう恵みある命運が予想される。

この仮初めならぬ瞥見が俺を何処へ連れて行くことだろう？  
（スフィンクス達に就いて）。  
こういうのの前に嘗てエディップスが立ったのだな。  
（ジレーネ達に就いて）。  
こういうのが危うさに、ウリスは麻縄で身を縛らせたのだな。  
（蟻どもに就いて）。  
こういうのによって、最高の宝が貯えられたのだな。  
（グライフどもに就いて）。  
こんなのによってそれが忠実に、間違いなく護られたのだ。  
俺は鮮やかな精神によって身を貫かれることを感ずる。  
姿が偉大なだけ、回想も亦偉大だ。

#### メフィストーフェレス

いつもならこんな物は呪い捨ててしまったでしょうが、  
今はそれが君のお気に入るようですね。  
其処で恋人の行衛を捜している土地では、  
化物でさえ懐かしいものですからね。

#### ファウスト(スフィンクス達に)

女子達。俺に教えて聞かせてくれ----  
お前達のうちで誰かヘレナを見た人がありますか？

#### スフィンクス達

私達はあの人の時代までは生きていませんでした。  
末のうちでも一番末の種(たね)をヘルクレスさんが殺してしまいましたの。  
ヒロンさんからなら、聞き出せるかもしれないわ。  
あの方、この精霊祭の晩には駆け廻っています。  
あの方が教えてくれれば、貴君は大成功よ。

#### ジレーネ達

君がためにもいと良からむ！.....  
ウリス我等がもとにとまり、  
嘲りて行き過ぎはせざりしとき、  
くさぐさのこと語りきかせき。  
すべてを君に告げまいらせむ、  
若し我等の住める里なる  
青海の岸へ身を寄せまさば。

#### スフィンクス

立派なお方、騙されてはいけませんよ。  
ウリスは自分で縛らせましたが、  
貴君は私達の忠告に縛られてお出でなさい。  
あのえらいヒロンさんが見つかりさえすれば、  
私の請け合ったことがおわかりになってよ。  
（ファウスト立ち去る）。

#### メフィストーフェレス(不機嫌に)。

羽ばたきをしながら嗶(しわが)れ声で鳴いて過ぎるのは何です？  
見ることも出来ないほど速く、  
一羽のあとに一羽といつまでも連れ立って行く。  
獵人(かりうど)もあれには草臥(くたび)れてしまうでしょう。

#### スフィンクス

吹き狂う冬の風にも較べられるように、  
アルケーウスの孫の箭(や)も届きかねるように。  
あれはステュンファルスの鳥どもで、  
あの囁れ声の挨拶は善意です、  
禿鷹の嘴と鵝鳥(がちょう)の足とを持っていますね。  
私達の仲間にはいって、先祖の繋がりをあることを  
認めて貰いたがっているのよ。

メフィストーフェレス(物怖じせるが如く)。  
その上に何かほかの物がしゅっしゅっと言って間拍子をとるね。

#### スフィンクス

あれは怖がるには及ばないわ。  
あれはレルナの蛇の幾つかある首で、  
胴から切り離されても一廉の者の積もりでいるのよ。  
それはそうと、貴君どうしようというの？  
なぜそんな落ち着かない様子をするの？  
何処へ行きたいの？構わずいらっしゃい！.....  
わかっているわ、彼処のあの群れが  
貴君を振り向き屋さんにするのでしょうか。我慢には及ばないわ、  
いらっしゃい！沢山ある色っぽい顔に挨拶をなさい。  
あれはラーミュ達です、手管の旨い浮気女どもです、  
微笑む口と臆面のない額とで  
ザティル仲間をもてなすのよ。  
山羊足の男は彼処へ行ってどんなことをしても構いませんわ。

#### メフィストーフェレス

貴女は此の儘此処にいるでしょうね？又お目にかかれるように。

#### スフィンクス

勿論よ！あの尻軽な仲間にはいっていらっしゃい。  
私達は、埃及(エジプト)時代から、長いこと馴れてしまっていますの、  
千年もどっしりと据(す)わり込むことには。  
私達の居処に気をつけていらっしゃい、  
月の暦も日の暦も私達できるのです。

ピラミッドの前に我等座を占む、  
もろもろの民の審判(さばき)の日まで。  
溢るる水、軍(いくさ)又和睦----  
されども変えず、顔の筋だに。

ペナイオス河、沼沢やニュンフェ達に取り巻かれたり。

#### ペナイオス

戦(そよ)ぎ寄らなむ、葦の囁き！  
みそかに息衝け、葭(あし)の姉妹(はらから)、  
さやげや、軽き柳の木立、  
私語(ささ)めけ、白楊の顫(ふる)え枝々、  
見果てず醒めし夢を求(と)めつつ！.....  
凶事(まがごと)告ぐる物のけはい、  
微かになべてをゆさぶる震え、  
波間の憩いゆ我を醒ましつ。

ファウスト(川の方へ歩み寄りつつ)。

俺の僻耳(ひがみみ)でないなら、信ぜずばなるまい----  
この枝やこの根生(ねば)えの、  
絡み合った茂り葉の奥から、  
人声に似た物音が洩れて来る。  
波も何やらしゃべっているようで、  
そよ風も亦----戯れて喜んでいるらしい。

ニュンフェ達(ファウストに)。

君がためもとも好からむは、  
君が身を横たえ臥(ふ)し、  
疲れたる君が手足を  
涼しき木蔭に休め、  
日頃君が得難きうまい  
味わい給わむことぞ。  
われ等さやぎ、さらさらと流れ、  
わが囁きを君に送らむ。

ファウスト

俺は確かに醒めている！ああ、夢裡の姿をそのまま支配し続けてくれ、  
較べるものもないあの姿を、  
俺の眼が送り届けるあの場処に。  
常理(ことわり)を越えて、あれはしみじみと身に沁み徹る！  
これは夢か？これは回想(おもいで)か？  
もうお前は、一度あの幸(さち)を享けた。  
穏やかに戦(そよ)ぐ、こんもりした灌木の木立の  
爽やかな中を、水の流れが這うて通る。  
それはざわめきもせず、殆どそよめきもせぬ。  
四方八方から百(もも)の泉が集まって来て、  
清らかに澄んだ、沐浴(ゆあみ)が出来るように  
浅く窪んだ、池を成している。  
健やかな、若い女性の手足が  
水鏡に映って、二重になって、  
悦びの眼に運び込まれる！  
それから女達は仲善く、楽しげに沐浴(ゆあみ)して、  
大胆に泳いだり、こわごわ水を涉(わた)ったりする。  
おしまいには叫び交わしての水合戦だ。  
これで俺は満足しているべきだろう、  
俺の眼は此処で味わい楽しんでいるべきだろう。  
併し俺の心は飽くまでも先へ進んで行く。  
眼はあの物陰の方へ鋭く押し迫る、  
満ちみちたる緑の茂れる葉群(はむら)が  
気高い后を隠しているのだ。

不思議なことだ！鵠(くぐい)も亦  
入り江の方からこちらへ泳いで来る、  
威厳のある、清げなる様に動きながら、  
ゆったりと漂い、優しく群れ、  
而も誇らしく、自ら喜ぶ風情が、  
あの頭と嘴(はし)との動かし方に見える。.....  
併し中でも一羽が群れを抜いて、  
大胆に誇らしく、自分で自分を喜んでいるらしい、

みんなを掻きわけて素早く泳ぎ進んで行く。  
体じゅうの羽をふっくりとふくらませ、  
自ら、浪の上に波を立てる波となって、  
それはあの神聖な場処へ衝き進む.....  
他の鳥どもは、穏やかに輝く羽を以て、  
あちこちと泳ぎ廻り、  
時には又騒がしく花やかな争いもする。  
それは物怖じする少女達の心をそらして、  
自分達の勤めを忘れさせ、  
ただ銘々の安全をのみ思わせよう為だ。

#### ニュンフェ達

姉妹(きょうだい)達、耳をつけて御覧、  
この岸の縁の段(きざはし)に。  
間違いでなかったら、馬の  
蹄の音(ね)が聞こえるようよ。  
今宵の祭りの急の使いを  
持って来たのは誰でしょうね。

#### ファウスト

どうも、駆けて来る馬の脚下に  
大地が鳴りどよむらしい。  
我が眼よ、彼方(あちら)を見ろ！  
一つの幸運が  
もう俺を音信れるのか？  
ああ、類(たぐい)のない奇蹟だ！  
一人の騎者が跑足(だくあし)を踏ませて来る。  
才にも勇にも恵まれた人らしい、  
眩い程に白い馬に乗っている。.....  
違いはあるまい、もう其の人がわかっている、  
フィリュラの生んだ名高い息子だ！-----  
待て、ヒロンさん！待て！お前に言いたいことがある。.....

#### ヒロン

なんじゃ？何事じゃ？

#### ファウスト

歩調を控えて下さい！

#### ヒロン

わしは休まん。

#### ファウスト

じゃ御願いです！私を連れて行って下さい！

#### ヒロン

乗るが好い！そうすればわしも勝手に問うことが出来る----  
何処へ行くのじゃ？お前はこの岸に立っているが、  
川を越さして遣っても構わん。

#### ファウスト(乗りながら)。

何処でも貴君の好きな処へ。御恩は永久に忘れません。.....  
偉大な人物、気高い教育者、

一群の英雄を育てて自分の名を揚げた人、  
心優れたアルゴ船乗り組みの立派な一団も、  
詩人の世界の題材となった凡ての人々もそれだ。

ヒ ロ ン

そんな事は抛って置いて貰おう！  
パラスでさえもメンートルとしては評判がいいとは云えぬ。  
結局は、弟子共は自己流でやって行く、  
育てて貰いはしなかったかのように。

ファウスト

どんな本草の名も知っている御医者、  
その根を底の底まで知り尽くして、  
病人には快癒を、痼(きず)には緩和を与える人、  
その人を私は此処に抱いているのだ、精神と肉体との力を其の儘に！

ヒ ロ ン

一人の英雄が傍で傷を受けたときには、  
わしは救ったり助言したりして遣ることが出来た！  
併しわしの技術もつまりは、  
草根婆(ばばあ)や坊主共の間に残ることになったよ。

ファウスト

貴君は本当の大人物ですな、  
賞讃の言葉に耳を藉そうとなさらない。  
謙遜に話をそらしてしまつて、  
自分のような者は他にもあるという風をなさる。

ヒ ロ ン

お前は御世辞が旨いに見える、  
君主にも人民にも程がいいだろう。

ファウスト

でもこれだけは承認なさるでしょう----  
貴君は同時代の最大の人物の数々を見て、  
事業にかけては最上の人々の風を慕い、  
半神らしく誠実に其の日を送られたのです。  
ところで、英雄の姿を具えた其の人々の中で、  
誰を貴君は一番優れたとお思いでした？

ヒ ロ ン

アルゴの船に乗った畏敬すべき人達の仲間は、  
孰れもそれぞれ独自の流儀で傑出して居た、  
そうしてその人に吹き込まれた力に応じて、  
他人に欠けているものを満たすことが出来た。  
ディオスクレーンの兄弟は何時も勝ちを得ていた、  
青春の充溢(じゅういつ)と美しさとが事を決する場合には、  
果断と敏速な行動とで他人の助けになるのは、  
ボレアスが子達の美しい役目であつた。  
思慮深く、剛毅で、聡慧で、自在な智慧者で、  
大将株になっていたのはイアソンで、女どもにも好かれた。  
それからオルフォイスは、物柔らかかで、いつも物を考えていて、  
誰よりも勝って七絃の琴を弾じた。

眼力優れたリュンコイスは、日となく夜となく  
暗礁や洲を避けてあの神聖な船を進めた。  
協力してこそ危険を切り抜けることが出来る----  
一人が働くと、みんなが褒めそやすのだ。

ファウスト

ヘルクレスの事は何も言わない積もりですか？

ヒ ロ ン

困るなあ！わしの昔恋しさを煽ってはいけない。.....  
わしはフェーブスは一度も見なかった。  
アレスやヘルメスなどという神々も。  
だがわしはあの人が俺の眼の前に立っているのを見た、  
あらゆる人間が神と称(たた)えるあの人だよ。  
あの方は生まれながらの王者だった、  
若い時分には見るもすばらしい立派さだった。  
兄にもよく仕えていたし、  
心から愛する女達にも亦同様だった。  
ゲーアもあれに次ぐものを再び産みはすまい、  
ヘーベもあんなのを二人と天へは連れて行くまい。  
歌に歌おうとしても労して功なく、  
石をいじめ抜いても彫れはしない。

ファウスト

彫刻家がどんなにそれを自慢にしたところで、  
こんなに目醒ましくあの人を現わし得たことは嘗てないでしょう。  
一番美しい男の話はこれで承りました、  
今度は一番美しい女の話も聞かして下さい。

ヒ ロ ン

なんだ！.....女の美というものは下らないもので、  
大抵は凝固した像になるのがお極まりだ。  
わしの褒めることが出来るのは、ただ  
嬉しげに、生を楽しみながら湧き出すものだけだ。  
美は閉じ籠もって我と我が身を楽しんでいる。  
優雅こそあらがい難いものにするのだ、  
丁度わしが乗せて遣った時のヘレナのように。

ファウスト

貴君があの人を乗せたのですか？

ヒ ロ ン

そうよ、この背中に。

ファウスト

私はそれでなくても気がそぞろになって居るのに、  
その上こんな有難い席にまで恵まれようとは！

ヒ ロ ン

あれはわしの鬘(たてがみ)の中を掴んでいた、  
お前がしているように。

ファウスト

ああ、たわいもなく  
私はとろけてしまう！様子を話して頂こう。  
あの人は私のたった一つの渴望です！  
何処から、何処へ、ああ、貴君はあの人を乗せたのですか？

ヒロシ

その問いに答えるのは造作もない。  
あの時にはディオスクレーンが  
盗賊の手から小さい妹を救い出したのだ。  
併し賊どもは負かされ癖がついていないので、  
勇気をふるってあとから追っかけて来た。  
そのとき兄弟の急ぎ走りを  
エロイジスの傍(そば)の沼地(ぬまち)が遮り留めた。  
男兄弟は徒歩渉(わた)りした、わしはばちやばちや向こうへ泳いで越した。  
其処であの子は跳び降りて、濡れた鬘(たてがみ)を  
さすったり、愛らしく賢しげに、而も位をとって  
媚びを見せたり、礼を云ったりしたものだ。  
彼女(あれ)の魅力のすばらしかったこと！あの若さ、老人を喜ばすあの愛嬌！

ファウスト

漸く十ばかりでねえ！

ヒロシ

さては文献学者どもが  
自分同様お前をも欺きおったな。  
神話の女はまるで特別のものだ。  
詩人は自分の都合任せに女を描いて見せるのだ----  
いつ成人になるでもなく、年寄りになるでもなく、  
いつも旨そうな姿をしていて  
子供のときに誘拐され、年をとっても口説き廻される。  
つまるところ、詩人は時間に縛(ばく)せられぬのだ。

ファウスト

だからあの人にも時間に縛せられぬが好い！  
アヒルがフェレーであの人を見つけたのも  
あらゆる時間の外ではありませんか。何という稀有の幸福でしょう----  
運命に逆らって恋を遂げたとは！  
私だって張りきったあこがれの力で、  
あの又とない姿を生(いのち)に返せぬ訳があるろうか？  
神々と位を等しくして、優しくて而も偉大に、  
親しみがあって而も厳かな、あの永遠(とわ)の姿を？  
貴君は昔あの人を見られた、今日私はそれを見たのです。  
魅すると共に美しく、慕われるほど美しくなる。  
今は私の心も存在も緊(きび)しい縛(ばく)にかけられて居る、  
あの人を手に入れずには、私は生きて居られません。

ヒロシ

おい、他所(よそ)の男！人間並みに云えば歓喜(かんき)だが、  
霊に仲間ではお前は狂気と見えるぜ。  
ところが此処に、丁度お前に都合のいいことがある。  
わしは毎年、ほんの一寸の間ではあるが、  
マントの許(ところ)に立ち寄ることにしているのだ。  
あれはエスクラップの娘で、静かな祈りを

父に捧げて願っている----父の面目となるように、  
いつかは医者共の心を浄(きよ)めて、  
情け容赦のない人殺しを改めさして下さい、と。.....  
あれは巫女仲間のうちでわしの一番好きな女だ、  
癖(へき)の多い感激屋ではなくて、親切故の和(なごや)かさがある。  
暫く滞留しているうちには、草根の力で、  
あれはお前を根本から直して呉れることも出来よう。

ファウスト

直してなんぞ貰いたくない、私は大丈夫です。  
直されたら他人同様下劣になってしまうでしょう。

ヒ ロ ン

尊い泉の靈験を蔑(ないがし)ろにするなよ！  
急いでお降り！もう着いたのだ。

ファウスト

言して下さい！貴君は私を何処の岸へ連れて来られたのです？  
物凄い夜中に、小砂利の川瀬を涉って。

ヒ ロ ン

羅馬と希臘とが対抗して相争ったのが此処だ、  
ペナイオスを右手に、オリュンプを左腋(さえき)に見て。  
最大の版図が砂上に消え失せた。  
国王は奔(はし)り、市民は勝ち鬨をあげた。  
眼をあげて御覧！すぐ間近に、  
月の光を浴びて永遠な神殿が立っている。

マ ン ト(夢見つつ、内側にて)。

馬の蹄(ひづめ)に  
神の階段(きざはし)は鳴る。  
半神達が来ると見える。

ヒ ロ ン

その通りだ！  
眼をあけて御覧！

マ ン ト(眼をさまして)。

いらっしゃい！欠かしはしませんね。

ヒ ロ ン

お前さんの神殿もちゃんと立っているからな！

マ ン ト

相変わらず疲れもせずにお歩きなさるの？

ヒ ロ ン

お前さんがいつもひっそりと神垣の中に住んでいると同じ事で、  
わしには駆け廻るのが嬉しいのだよ。

マ ン ト

私は動かずにいる、時が私の周りを廻ります。  
してこの方は？

## ヒ ロ ン

兎角の評ある今夜の祭りが  
渦巻きの中に巻き込んで彼(あれ)を此処へ連れて来おった。  
ヘレナを---気が狂って、  
ヘレナを、手に入れたくなつたとさ。  
それでも何処でどう手を着けばいいかがわからない。  
エスクラプの治療には誰よりも持て来いの者だよ。

## マ ン ト

そういう人こそ私は好きです、出来ないことに焦がれる人こそ。  
(ヒロン既に遠く去れり)。

## マ ン ト

御はいんなさい、向こう見ず屋さん。喜んでいい事があるのよ。  
この暗い廊下がペルゼフォナイアさまの許(ところ)へ続いて居ます。  
オリュンプの麓の洞穴の中で  
あの方は禁ぜられている挨拶を密かに聴きなさるのです。  
私はいつかオルフォイスをも此処からそっと入れてやりました。  
あれよりももっと旨くなさい、元気に！勇敢に！(共に降り行く)。

前と同じく、ペナイオス河上流の地

## ジレーネ達

ペナイオスの流れに跳び入らなむ！  
音たてて其処に泳がむぞよき、  
歌又歌を歌わむぞよき、  
理(こおとわり)知らぬ民の救いに。  
水なくば幸(さち)もなし！  
我等、晴れやかなる群れとともに  
エーゲウスの海に急がば、  
楽しきこと皆我が物なるべき。  
(地震)

## ジレーネ達

泡立ちつつ波立ち還り、  
はや河床を流れずなりぬ。  
地は震い、水は堰(せ)かれ、  
河原と岸とは、裂けて煙(けむり)吐く。  
いざ逃れてむ！来よ、皆、来よ！  
この怪(け)しき事、誰か願わむ。

行かむ！遊べる貴きまろうど、  
魂かけて嬉しき祭りに。  
岸を浸し、静かに膨るる処に。  
ルーナは二つに照りて、我等を  
聖(きよ)き露をもて潤(うるお)すところに。  
かしこには罍凝(けげ)なく動ける生、  
此処には心憂(うれ)くも揺るる地震(ない)。  
賢しき人よ、皆急ぎ行け！  
いともゆゆしき処ぞ此処は。

## ザイスモス

(地底にて唸りひしめきつつ)。  
も一度うんとこ押して見よう、  
肩でしたたか持ち上げてやろう！  
それで俺達は上へ出られる、  
何でも避(よ)けずにや居られまいて。

### スフィンクス

何という厭な震動でしょう、  
醜い、気味の悪い鳴動でしょう！  
何という揺れよう、何という震えよう、  
ぶらんこのような往きつ来つの動きようでしょう！  
何という我慢の出来ない胸悪さでしょう！  
けれども私達は此の場は動かない、  
地獄がそっくりはじけ出すとも。

おや、不思議な円天井が迫(せ)り上がって来る。  
あの人です。あのお爺さんです。  
とくに白髪になた男、  
デロスの島を拵えた人、  
お産の迫った女のために  
波の中からその島を湧き出さした人です。  
あの人が、力んだり、衝いたり、圧したり、  
腕を硬ばらして、背中を屈めて、  
アトラスのような様子をして、  
地盤や草地や土塊(つちくれ)や、  
小石も砂利も砂も粘土も、  
此の川岸の静かな床さえ、持ち上げるのです。  
到頭、この谷の平和な表面(おもて)を、  
筋をつけて斜(はす)に引き裂いてしまいました。  
精一杯に力を張って、疲れということを知らず、  
とっても大きな女身柱(カリアテイデ)。  
一つの恐ろしい岩組を、まだ地の中にいながら  
胸のところまで持ち上げて居ます。  
併しあれから上へは上らせません。  
スフィンクス達が据わって居ますからね。

### ザイスモス

あれはみんな俺一人で遣ってのけたのだ、  
世間でもしまいはそれを認めるだろう。  
若し俺がゆすったりゆすぶったりしてやらなかったら、  
どうしてこの世界がこんなに美しくなっているものか？ ----  
どうして、鮮やかに澄んだ碧雲(あおぐも)の中に、  
あの高い、お前達の山々が聳えていられるものか、  
若し俺があれを押し上げて、絵を見るように  
うっとりさせる見物(みもの)にしてやらなかったら！  
それは大昔の先祖の、夜や混沌の面前で、  
俺が力一杯に振る舞っていた時分のこと、  
ティターン達と一緒にあって、ペリオンやオッサを  
球投げをするように投げ合った時分のことだ。  
俺達は若気の熱に任せて暴れ続けて、  
おしまいに飽きが来たとき、到頭俺達は  
パルナス山の上に、木菟(みみずく)頭巾(ずきん)の恰好に、  
二つの山を、乱暴にも重ねてやったものだ。.....

今ではアポロが、至福のムーゼ達の一団と  
彼処で楽しく逍遥しつつ住んでいられる。  
ユピターとその付き物の電の箭束(やたば)とのためにも、  
俺はあの椅子を高く持ち上げてあげた。  
そこで今夜も、巨大な努力を払って、  
底の底から迫り上がって来て、  
大声を張り上げて、いそいそしている住民どもに、  
新しい生活を促すのだ。

### スフィンクス達

人は、此処に迫り上がって来て出来た山を、  
大昔の物と言わずにはいられないでしょう、  
若し私達が自分の眼で、それが地面から  
もがいて出て来るところを見て居なかったら。  
下藪の茂った森がずんずん広がって行く、  
今も猶岩と岩とが動いて群れ寄って来る。  
スフィンクスともあろう者はそんなことには頓着しないでしょう----  
私達はこの神聖な居所を妨げさせはしない。

### グライフ達

黄金が薄紙をなし、黄金が箔(はく)をなして、  
裂け目の間からちらちらするのが見える。  
こういう宝は奪われぬようにするのだぞ。  
蟻どもよ、さあ！掘り出しにかかったり。

### 蟻どもの合唱

巨人(おおびと)達が此の山を  
高く押し上げたように、  
ちょこまか脚の諸君、  
早く上へ登り給え！  
大急ぎで出はいりし給え！  
こういうような裂け目では  
どんな小粒でもみんな  
持っている値打ちがあるのだ。  
極々の小粒でさえ  
見落としてはならぬ。  
迅速無比に  
隅々を探ろう。  
精根を尽くして働くがよい、  
蠢(うごめ)き群がる諸君。  
ただ金だけを取り入れるのだ！  
空鉦(むだいし)は捨てて置け。

### グライフ

持って来い！持って来い！黄金を積み上げろ。  
俺達が爪を其の上に載せて遣る。  
門が極上のものだと、  
どんな大事な宝も確かに保管されるぞ。

### ピュグメーエども

実際此処に陣取っている、  
どうしてそうなったか、わし等は知らぬ。  
何処から来たなぞと問うて貰うまい、

わし等はとにかく来ているのじゃ！  
生きて楽しく住もうには、  
どんな土地でも困りはしない。  
巖の裂け目が見えさえすれば、  
小人は早速其処に来ておる。  
小人は男(お)も女(め)も、すばしっこい勉強家で、  
どの組も皆夫婦の手本じゃ。  
樂園の昔もこうであったか、  
其処のところはわしも知らない。  
兎に角此処は結構なところだ、  
有難くわし等の星を祝福する。  
東に向いても西に向いても、母なる大地は  
子を産むことが好きだからな。

#### ダクティルども

あのかあさんは一夜のうちに  
小さな者どもを産んだのだから、  
一番小さな者をも産もう、  
それにも似合いの連れが出来よう。

#### ピュグメーエの長老

急いで、程好い  
座を占めろ！  
急いで仕事だ！  
強さの代わりに早さで来い！  
今はまだ平和だ、  
鍛冶場を拵えて、  
鎧(よろい)や武器を、  
軍(ぐん)の為に備えろ。

蟻達はみんな  
群れ寄せて動いて、  
粗鉾(あらがね)を持って来い！  
それからダクティル達、  
一等小粒で、数の多い連中、  
お前達への命令だ、  
木を伐って来い！  
積んで重ねて、  
陰火(かげび)を燃して、  
炭を拵えろ。

#### 将 軍

弓と箭を持って  
元気で出陣だ！  
あの池の傍の  
鶯(うぐいす)どもを射る墜とせ。  
無数に巢喰って、  
えらそうに威張りおる、  
彼奴を一気にやっつけろ！  
一羽も剩(あま)すな。  
そうすりゃ胃に  
飾りがつくぞ。

### 蟻どもとダクティルども

誰が俺達を救うだろう！  
こっちが鉄を持って来れば、  
奴等は鎖を拵えおるわ。  
でも抜け出すには  
まだ早過ぎる、  
まあ辛抱が肝要だ。

### イビュクスの黒鶴

殺戮の叫び、末期の哭声(なきごえ)！  
物に恐れる羽ばたきの音！  
何という呻き、何という唸りが  
我々の居る高みまで登って来ることだ！  
あれ等はみんなもう殺されて、  
池はその血で赤く染まった。  
出来損ないの食欲が  
鷲の床しい飾りを奪う。  
それはもう、腹でっかちの、脚(あし)曲がりの悪漢(わるもの)の  
胃の上にひらひら閃く。  
おい、我が軍の仲間の諸君、  
列(つら)をなす海の旅人、  
此の仇討ちは諸君の任だよ、  
事は近親に関わるのだから。  
誰も力と血とを惜しまず  
あの醜類に永遠(とわ)に敵対へ！  
(叫びつつ空中に散ず)。

### メフィストフェレス(平地にて)。

北方の魔女共なら旨くこなして見せられるが、  
この異国の化物どもは俺の手におえん。  
ブロックの山は全くくつろげる場所だて。  
何処へ行こうと、すぐに見当がつく。  
イルゼの姨(おば)はその名の石の上で見護ってくれる、  
我が名の高みではハインリヒも元気にして居られよう、  
鼯岩が素寒貧(エーレント)村に鼻息をふっかけているにしてからが、  
みんな千年をかけてきまっていることだ。  
ところが此処では、何処を歩くにしろ何処に立つにしろ、  
足下(あしもと)の地盤が膨れ出さんかどうか、誰がわかるものか？.....  
俺がいい気持に柔らかな谷間をぶらついていると、  
俺のうしろにだしぬけに迫り上がって来るのが  
山だ、尤も山というのも大袈裟だが、  
それでも我がスフィンクス達と吾輩とを隔てるには  
十分なだけの高さはある----此処では、下の谷にかけて  
まだ大分篝火が明滅して、不思議な物共の周りに燃えている.....  
まだ、俺をおびいたり、避(よ)けたり、  
狡猾者(ずるもの)らしく騙したりしながら、  
品を作った連中が、踊ったり、ふらふらしたりしていやがる。  
さあそっとやるのだぞ！撮(つま)み癖がつき過ぎているので、  
何処にいても、何かを攫(つか)まえにかかる奴さ。

### ラーミエども(メフィストフェレスを誘い寄せつつ)。

急ごうよ、もっと急ごうよ！  
何処までも何処までも！

それから又足を緩めて、  
ぺちやくちゃ御饒舌するのさ。  
とっても面白いじゃないの、  
お爺ちゃんの好色漢(すきもの)を  
私達のあとにおびき寄せて  
思い罰をあててやるのは。  
すくんだ脚で  
よろよろ来るわ、  
躓きながら来るわ。  
彼奴は足を引きずって、  
私達が逃げると、  
あとから来るわ。

メフィストーフェレス(立ち停まりて)。  
呪われた運命だぞ！騙され者の野郎仲間だぞ！  
アダム以来誘(おび)かれ通しのハン公奴！  
年は誰でもとるけれど、扱(さて)賢くなるのはどなただい？  
お前はもう散々馬鹿にされて来たじゃないか！  
そりゃ知れている、あの族(やから)は根っから役に立たないのだ、  
紐で腰を細くして、顔に何かを塗る族は。  
がっしりした手答えは一つもなく、  
掴んで見ればどの節々もへなへなだ。  
そりゃ知れている、見えてもいる、手にもとられる、  
それでも人は踊るのだ、腐肉が笛を吹くときには！

ラーミエども(歩みを控えて)。  
御待ちよ、あの人何か考え込んで、迷って、立っていてよ。  
持ちかけてお遣りよ、逃がさないように！

メフィストーフェレス(進み出ず)。  
やっつけろ！おめでたく、疑惑の網に  
ひっかかっているような真似はするない。  
魔女というものがなかったら、  
悪魔奴、誰が悪魔なんかになっていられるものか！

ラーミエども(上なく艶に)。  
この偉い方の周りに圈(わ)を描(か)きましょうよ。  
あの方の心臓の中に、誰かを可哀がるお気持ちが  
萌(きざ)して見えるに違いないわ。

メフィストーフェレス  
全くだ、臃ろなちらちら明かりで見れば、  
お前達も綺麗な御婦人方と見えるわ、  
だからお前達の悪口は云いたくないて。

エンプーゼ(中に押し入りて)。  
私のことも云わないでね！その積もりで  
お仲間に入れて頂戴ね。

ラーミエども  
あの人、私達の仲間には結構過ぎるわ、  
いつでも遊びの邪魔をするんですもの。

エンプーゼ(メフィストーフエレスに)。  
御挨拶申しますわ、従妹のエンプーゼから、  
驢馬の脚を持っているお馴染みから。  
貴君のはただの馬の脚だけれど、  
兎に角、従兄(にい)さん、幾重にも宜しく！

メフィストーフエレス

此処には知り合いなんぞは居ない積もりだったに、  
生憎近親(みより)が居たのだね。  
これでは古い書物でもめくって見ずばなるまい----  
ハルツからヘラスまで親類だらけとは！

エンプーゼ

私は思いきって素早い芸当が出来ますの。  
私、いろんなものに化けられるわ。  
でも今は、貴君への敬意に、  
驢馬の頭になって見たのよ。

メフィストーフエレス

見受けるところ、この手合いの中では  
血縁が重んじられているらしい。  
併し何が持ち上がるのも勝手だが、  
驢馬の頭だけは御免蒙りたいね。

ラーミエども

あの厭な女には構わないでよ、彼奴はみんな追っ払うのよ、  
何でも美しく愛らしく見えるものは。  
何でも美しく愛らしいものは、  
彼奴が来ると、消えてなくなりますの！

メフィストーフエレス

この華奢で骨細な従妹どもも、  
ひっくるめて俺は怪しいと思う。  
こういう薔薇色の頬っぺのうしろにも、  
変化(へんげ)が隠れていはいしないかな。

ラーミエども

試して御覧なさいな！仲間は大勢よ。  
掴まえなさいな！貴君が遊び運のいい方なら、  
一等いい籤をひき当てるがいいわ。  
色好みの繰り言なんぞ何になるの？  
貴君はみじめな猟色家だわ、  
威張って歩き廻って、大きな顔をしてさ！----  
さあ、あの人、私達の仲間にはいった、  
段々に仮面を脱ぎ捨てて  
銘々の本性を見せておやんなさい。

メフィストーフエレス

一等の別品を掴み出したぞ.....  
(これを抱く)。  
おや、大しくじりだ！何という痩せ箒(ほうき)だ！  
(他の女を掴む)。  
それからこいつは？.....ひどい御面相だな！

## ラーミエども

もっといいのが似合いのお積もり？自惚れちゃ駄目。

## メフィストフェレス

小さいのを書き入れにしようと思う.....  
と、蜥蜴(とかげ)奴、手から擦り抜けやがる！  
それから編み下げ髪が蛇めいてぬらつく。  
そんなら一つと長いのを掴む.....  
と、掴み当てたのはテュルジスの杖と来る！  
頭は松毬だ。  
どうなることやら？.....もう一つ肥っちょを。  
こいつは慰みになるかも知れん。  
最後の勝負だ！やっつけろ！  
ぶくぶくぶよぶよしてやがる、こんなのが  
東洋ではいい値がするのだ.....  
ほい、どうだ！馬勃(けむたけ)菌が二つにはじけやがる！

## ラーミエども

さあ分かれましたよね、ゆらめいたり漂ったり  
稲妻形に、黒く飛んで、  
押しかけ者の魔女の息子を取り囲んでやりましょうね！  
ふらふらする、気味の悪い圏を描きましょう！  
これでもあの人、廉(やす)くて済みすぎた分よ。

## メフィストフェレス(身震いす)。

どうも、俺も大して利口にはなっていないらしいな。  
此処も馬鹿げている、北の方も馬鹿げているけれど。  
化物どもは、あそこでもここでも、ねじくれてけっかる、  
土地の者も詩人も殺風景だ。  
ここもと丁度仮装舞踏会の場で、  
何処も同じ肉欲踊りのたぐいだ、  
艶っぽい仮装の行列にちょっかいを出して見たら、  
俺は竦毛(おぞけ)をふるうような奴を掴みおった。.....  
俺は喜んで騙されたいのだからなあ、  
あれがもそっと長持ちさへしてくれたら。  
(石ころの間に踏み迷いつつ)。  
俺は一体何処にいるのだ？道は何処へ出るのだろうか？  
あれは小径(こみち)であったものを、今は砕けた石の捨て場だ。  
俺は坦(たいら)な道を来たが、  
今俺の前に立ちはだかるのは転げ落ちた石どもばかりだ。  
攀じ登ったり降りて見たり、無駄骨折りをするばかりで、  
俺のスフィンクスどもとは何処で再会が出来ることやら？  
こんな気違いじみたことは、俺は考えも及ばなかった。  
一夜のうちにこの山とは！  
これは新手の魔女飛行(ひぎょう)というべきだね、  
自分達のブロック山と一緒に運んで来るのだからねえ。

## オレアス(天然岩の上より)。

此処へ登っていらっしやい！私の山は古い山で、  
大昔のままの姿で立って居ます、  
峻(けわ)しい巖道を崇(あが)めなさい、  
ピンズスから延びて来た一番最後の端山ですから。

私は動(ゆる)がずにこう立っていました、  
ポンペーユスが私を越して逃げた時にも。  
傍にある妄想の象(すがた)なんぞは、  
鶏が鳴けばもう消えてしまいます。  
こういう風なお伽噺が、出来たと思えばすぐに、  
その姿を消すのを私は幾度か見て来ました。

#### メフィストーフェレス

崇められてお出なさい、崇められていいお頭(つむり)だ、  
榊(かしわ)の木の傑(すぐ)れた力が葉の茂みでそれを取り巻いている！  
隈なく澄んだ月の光も  
あの木下闇へは差し込むことが出来ぬ。----  
ところがあの木立の傍を、一つの光が、  
ひどく慎ましやかに光りながら通っているな。  
これは不思議な廻り合わせだぞ！  
確かにあれはホムンクルスだ！  
どっちから来たい、おい仲間のちび公？

#### ホムンクルス

私は其処から此处へと飛んで廻っています、  
どうぞして本当の意味で成り出でたい、  
せっかちにこの硝子を割ってしまいたい、と思って。  
併しこれまで見たのでは、  
思い切って飛び込んで行こうと思う処がありません。  
ただ、内証で貴君にお話しするのですが、  
私は二人の哲学者のあとをつけているのです。  
耳を欻(そばだ)てると、「自然！自然！」と云っていましたが、  
私はあの人達と離れたくありません、  
屹度地上の生物(いきもの)のことに通じているでしょうから。  
そうしたら結局はわかりそうなものです、  
何処へたよるのが一番賢いかが。

#### メフィストーフェレス

それはお前が自分の手でするが好い。  
何故なら、化物仲間が陣取っているところでは、  
哲学者も亦歓迎される、  
世間の奴がその腕前と恩恵とを有り難がるように、  
先生早速一打(ダース)の新物を製造するのだからね。  
迷って見なくては、お前も智慧が附かないよ！  
成り出でたいと思うなら、自分の手で成り出でるが好い！

#### ホムンクルス

併し好い助言も棄てたものではありません。

#### メフィストーフェレス

それじゃあ出かけろ！どうなるか見ていようよ。  
(立ち別る。)

#### アナクサゴラス(ターレスに)。

君の強情な心が頭を下げたがらないのだ。  
君を得心させるのに、これ以上の説が要るのかい？

#### ターレス

波はどんな風にも喜んで頭を下げる、  
併し嶮しい巖をば避けるものだ。

アナクサゴラス

火炎の靄(もや)気があればこそこの巖はこの通りに出来ている。

ターレス

湿り気の中で生物は出来たのだよ。

ホムンクルス(兩人の間にありて)。

貴君方の側について行かして下さい、  
成り出でることは、この身にとっての切なる願いなのです！

アナクサゴラス

おいターレス君、君は、一晩のうちに、  
こんな山を泥から造り出したことがあるかい？

ターレス

自然とその生々した流動とは、決して  
昼夜や時刻に左右されて来はしなかった。  
自然は整理者としてそれぞれの形態を拵え上げるのだ、  
大局から見ても、それは暴力ではない。

アナクサゴラス

ところが此処ではそうだったね！プルートン流の凄まじい火、  
エオルスの吹き立てる瓦斯の恐ろしい爆発力が、  
平坦な土地の古皮(ふるかわ)を衝き抜いて  
新しく一つの山がすぐに出来なくてはならないようにしたのだ。

ターレス

その為に此の先引き続いてどうなるというのだい？  
山は確かに出来ている、結局それでいいのだよ。  
こんな議論をしていては、時間も暇も潰れてしまう、  
そうしてただ気の長い世間の者を綱をつけて引き擦り廻すだけだ。

アナクサゴラス

早速、山はミルミドーネ族でうようよし出す、  
それは岩の裂け目に住まいするもので、  
小人や蟻や拇指小僧や  
その他のまめな、小さい連中なのだ。  
(ホムンクルスに)。  
お前は一度も偉大な事を追い求めたことがなく、  
世捨て人らしく狭苦しく生きて来た。  
若しお前が修業して人の上に立つ者になれるようなら、  
お前に王冠を授けて王にしてやっても好いのだが。

ホムンクルス

ターレス先生はどう思召します？

ターレス

勧めたくないね。  
小さい者を相手にすれば、人は小さい事業をする。  
大きな者が相手なら、小さい者も大きくなる。

御覧！あの黒鶴の黒雲を！  
あれは暴動の民を威(おど)しているのだが、  
帝王をもあの通り威すだろう。  
鋭い嘴と爪の尖った脚を揮(ふる)って、  
刺し殺そうと、小さい者共の上に卸して来る、  
悲運はもう稲妻の閃(ひらめ)きを発している。  
暴虐の行為が鷺(さぎ)どもを殺した、  
それは静かな平和な池を取り巻いて行われたのだった。  
ところがあの殺生の矢の雨が  
残酷な、血腥い復讐熱を掻き立てて、  
肉縁ある者どもの激怒を煽り、  
ピュグメーエどもの非道の血に渴せしめることになった。  
今は盾も冑も矛も何の役に立とう？  
鷺の羽の閃きも小人共に何の助けになろう？  
ダクティルや蟻共の身を隠す様はどうだ！  
もう動揺(どよ)めき出した、全軍は逃げる、崩れる。

アナクサゴラス(暫くの間の後、重々しく)。  
今まで俺は地下の威力を見てこれを称えて来た、  
この場合には俺は上を仰いで祈願する。.....  
御身よ！上にありてとわに老いせぬ者、  
三つの名号、三つの形相ある者よ、  
我が民の姿を見て私は御身に呼ばれる、  
ディアナ、ルーナ、ヘカーテよ！  
御身、胸を広やかにする者、奥深く思念する者よ、  
御身、静けくも照る者、威ありて窈(ふか)き者よ、  
御身の影の物凄き顎(あぎと)を開いて、  
昔ながらの威力を、魔法を用いずして示させ給え！  
(間)。

身の願い、逸早く聴かれたか！  
あの空高く  
捧げた祈りが  
自然の秩序を紊(みだ)したのか？  
次第に大きく、益々大きく、もう  
女神の丸く縁取られた玉座が近づく、  
それは眼に恐ろしく、常ならず見える！  
凄まじいまでにその火が赤くなる。.....  
もう近づく勿(な)！威嚇する、力逞しき円盤、  
御身は我等をも陸をも海をも滅尽(げんじん)させるであろう！  
それではあれは本当だったのか、テッサリーエンの女子どもが  
畏怖(おそれ)を知らぬ魔法の心安立てに、  
御身をその軌道(みち)から歌い卸したというのは？  
此の上もない禍を強いて御身から招ぎ寄せたというのは？.....  
輝く盾が周囲から昏くなって来た、  
それがだしぬけに裂ける、閃く、赫(あか)く！  
あのぱちぱちする音はどうだ！あのしゅっしゅっという音はどうだ！  
それに交じって、雷鳴がする、暴風(あらし)が吹く！----  
遜(へりくだ)って身を玉座の段(きざはし)へ！----  
宥(ゆる)させ給え！私がそれを招ぎ寄せたのです。  
(身をひれ伏す)。

ターレス

好くいろんな物が聞こえたり見えたりする男だな！

何事があったのか、俺にはさっぱりわからない。  
俺にはあの男と一緒に感じることも出来なかった。  
全く、今は気違いの時刻だよ。  
ルーナは如何にも安らかに、前々通りに、  
自分の居場所に浮かんでいなさるのに。

#### ホムンクルス

でもピュグメーエ達の居所の方を御覧なさい、  
山は円かったのに、今は尖っているでしょう。  
私には恐ろしい衝突のあったことがわかりました、  
岩が月から墜ちて来て、  
すぐさま、何の彼のと穿鑿せずに、  
敵も味方も潰して殺してしまったのです。  
併し私はこう言う技術を称えずにはおられません、  
創造的に、たった一晩のうちに、  
下からも上からも時を同じくして、  
こんな山組を造り上げたのですからね。

#### ターレス

まあ落ち着いて居ろ！あれはただ観念上のことだった。  
あの醜類どもは滅びてしまえ！  
お前は王にならないで好い事をしたね。  
さあ晴れやかな海の祭りへ出かけよう、  
彼処では不思議な客を待ち受けて敬ってくれるのだ。  
(共に立ち去る)。

#### メフィストーフェレス (反対の側を攀じつつ)。

こうして俺は、峻しい岩坂を凌いで、古い櫨(かしわ)の木の  
ごつごつした根を踏んで、体をひきずり上げなくてはならんのだ！  
国のハルツでは樹脂(やに)の匂いが  
何か爹兒(たーる)臭いところがあって、俺はあれが最良だった。  
それに硫黄が.....ところがこの希臘人の住む国では  
そんな臭いはちょっぴりだって嗅ぐことが出来ん。  
一つ物好きに探って見たいものだな、  
地獄の呵責や炎を此処では何で焚き附けるんだか。

#### ドリュース

貴君も御国ではお国なりに賢い方でしょうが、  
よその国では気が利かなすぎますね。  
心を故郷へ馳せるようなことはよして、  
此处で、神聖な櫨の木の崇高(けだか)さをお拝みなさいな。

#### メフィストーフェレス

人は見棄てて来たものを懐かしく思い出すものでね。  
自分の馴染んだものがいつまでたっても天国ですよ。  
だがちょっと----あの彼処の洞穴の中で  
薄昏がりに三重(みえ)になってしゃがんでいるものは何ですか？

#### ドリュース

フォルキュアスの娘達よ！思いきって彼処へ行って、  
話しかけて御覧なさい、気味が悪くなかったら。

#### メフィストーフェレス

遣りかねるもんか！なんだか、見ると驚くなあ。  
俺がどんなに負けん気でも、自分で自分に白状せずにはいられない----  
こんな物を俺は一度も見たことがない、  
これはアルラウネよりも猶ひどいや。.....  
大昔から擯斥されて来た罪惡だって、  
凡そ醜いと思われようか、  
この三人お化けを見るからには？  
我々はこんな物を、我々の地獄のうちに  
一番ひどい地獄の入口にさえ、置いてはやらなかった。  
そいつが美の国土の中に根を卸している、  
それが古代と名づけて褒めそやされて居るのだ。.....  
奴等動きやがるな、俺を嗅ぎつけたと見えるな、  
ぴいぴい囀りおるぞ、蝙蝠・ヴァンピール共奴が。

#### フォルキュアス

姉妹(きょうだい)達、眼(まなこ)をお貸し、我々の祠(ほくら)の  
こんな近所まで一体誰が来たのか、たづねて見ますから。

#### メフィストフェレス

最も畏敬する方々！お許しを願います、お傍へ参って、  
皆様の御祝福を三重にお受けしたいのです。  
まだお馴染みのない者としてお目通り致しますが、  
私の間違いでなけりゃあ、遠縁の御親類に当たります。  
古い尊い神々をもこれまで拝見して来ました、  
オプスとレーアの前にも最敬礼を致しました。  
混沌の子で皆様の御姉妹に当たるパルツェ達さえ  
私は昨日お見受けしました----それとも一昨日かな。  
併し貴女のような方はついぞ拝見したことがありません、  
私はもう黙り込んで、感激に浸って居りましょう。

#### フォルキュアス達

これは物わकारいの好い男のようですね、この魔物は。

#### メフィストフェレス

ただ妙に思われるのは、どの詩人も貴女方の讚美を怠っていることです。  
おっしゃって下さい----どうしてでしょう、どうしてそんな事が  
あり得たのでしょうか？  
絵の中でも私は、尊貴至極の貴女方を、ついぞ拝見したことがありません。  
彫刀(のみ)も、ユーノやパラスやヴェヌスやその類(たぐい)のものだけでなく、  
貴女方の真にも迫ろうと試みて見れば好いに。

#### フォルキュアス達

寂しさと何の物音もない夜との中に沈んでいるので、  
三人ともまだ一度もその事に思い寄らなかったのです！

#### メフィストフェレス

無理ありませんね。貴女方は、世間を遠ざかって、  
此処で誰にもお逢いなさらず、又誰も貴女方を拝することがないのですから。  
貴女方は賑やかな土地に住んでいなさればよかったに----  
其処では、豪奢と芸術とが同じ玉座の上にすわっているような処に。  
其処では、毎日々々、素早く、倍歩を踏んで、  
大理石塊が英雄の姿になって世に出るというような処に。  
其処では----

フォルキュアス達

お黙り！娑婆気を起こさしちゃいけません！  
それが何になりましょう、仮令其処が好いと承知していたにしても。  
夜に生まれて、夜のものと血が繋がって、  
他人は勿論自分にさえほとほと知られずにいる身ですもの。

メフィストーフェレス

そういう風なら、大して拘泥する必要もなく、  
我が身を他人に移すことも出来ますね。  
お三人で、一つの眼で足り、一つの歯で足りるのですから、  
神話学上これも差し支えがない筈ですね----  
三人の本質を二つに攝して、  
第三の姿を私に貸して下さることも。  
尤もただ暫くの事ですがね。

一 女

皆さんどうでしょう？ いいでしょうか？

他の二人

やって見ましょう！----併し眼と歯とは駄目ですよ。

メフィストーフェレス

それは一等いい物を取り除くというものです、  
それではどうして、そっくりそのままのお姿が出来上がりましょう？

一 女

わけはありません、片々の眼を瞑って、  
それから鬼歯を一本見せて御覧。  
そうすれば、横顔がすぐにそっくり、  
姉妹らしく完全に、私達に似て来ますよ。

メフィストーフェレス

光栄の至りですな！よかろう！

フォルキュアス達

いいとも！

メフィストーフェレス(横顔にフォルキュアスとなりて)

これで出来上がったぞ、  
混沌の秘蔵息子が！

フォルキュアス達

私達は混沌の娘です、疑いもなく。

メフィストーフェレス

世間の奴は、これで、俺を隻成(ふたなり)なんぞとけなすのだな。癪だねえ！

フォルキュアス達

新しい三人姉妹のうちで誰が美人でしょう！  
私達、眼を二つ、歯を二つ持っているわけね。

メフィストーフェレス

もう誰の眼にも触れぬようにしなくてはならぬ、  
これで、地獄の水溜まりで悪魔どもを脅かしてやるんだ。(退場)。  
ニーゲウスの海、岩礁の入江。  
月天心にいざよえり。

#### ジレーネ達

昔、凄まじき夜の紛れに、  
テッサーリエンの魔法の女(おみな)等、  
おほけなく君を降ろしまつりしことはあれど、  
君が掌(つかさど)らす夜の御空より、  
顫(ふる)う波のしくしくに優しく閃くを、  
今、静かに見卸したまえ。  
又その波間より身を浮かぶる、  
群れ集うものを照らせ給え。  
何事にまれ君に仕えまつらむ、  
美しきルーナよ、み恵みを垂れ給え！

#### ネロイスの子等とトリートン達(海の怪物として)。

一際鋭き音を高く立て、  
広き海原どよもし渡りて、  
底なる民を継ぎて呼ばなむ！  
我等、恐ろしき顎(あぎと)の嵐を  
いと静けき岩辺に避けたり、  
優しき歌の牽くに任せて。  
見給え！我等、嬉しさのあまりに、  
身を黄金の鎖もて飾り、  
又冠の珍玉(うずたま)に添えて、  
釧(くしろ)さえ帯さえ装(よそお)えるを！  
こは皆君等の賚(たまもの)なり。  
船碎けて此处に沈みし宝を、  
君等我がために歌い寄せ給いつ、  
君等、入江の主(ぬし)たち。

#### ジレーネ達

夙に知れり、海原の涼しさのうちに  
平らけくも魚は楽しみ、  
漂いの生(よ)を憂いなく過ごすを。  
さわれ！君等、祭りめき賑やかに集う群れ、  
今日こそ我等見ばやとぞ思う、  
君等の魚より優れたるを。

#### ネロイスの子等とトリートン達

此处指して来るに先ち、  
我等そを心に持ちき、  
おとどい等、はらから達、いざ疾くせむ！  
今日いささかの旗をなさば、  
もとも力あるあかしは立たむ、  
我等の魚より優れたること。  
(遠ざかる)。

#### ジレーネ達

皆つと去りぬ！  
サモトラーク指して真っ直ぐに、

追い風のまにまに消えぬ。  
何事を成さむとかすらむ、  
尊きカビーレンの国へ行きて？  
そは神々なり！奇しく類いなく、  
絶え間なく己れ自らを産みつつ、  
自ら何ぞとも知らぬ神々。

君のみ空高く、さながらに、  
常に恵み深くいませ、優しきルーナ。  
夜の時長く続き、  
昼の我等を逐うことなからむため。

ターレス(岸にて、ホムンクルスに)。  
お前をネロイス爺さんのところへ連れて行っても好いがね。  
実際彼(あれ)の洞窟(ほらあな)も遠くはないのだが、  
何しろ彼は頑固頭(あたま)で、  
仕末におえない酢壺(すつぼ)と来ているのでねえ。  
人間という種族の全体が、  
あの気むずかしやにはいつも気に喰わないのだ。  
それでも彼には未来がわかるので、  
それに免じて誰でも彼に敬意を払って、  
自分の持ち場に着いている彼を尊重して遣っている。  
それに彼は大勢の人に善い事もしてくれたしね。

ホムンクルス

遣って見ましょうよ、門を叩いてやりましょうよ！  
すぐに瓶と火とが打ち壊されるようなこともありますまい。

ネロイス

俺の耳に聴こえるのは人間の声か知らんて？  
直に心の底から腹が立って来てならんわい！  
神々の境に達しようと努力はするが、  
いつまでも自分で自分と背競(せいくらべ)をしているように  
悪運を背負わされた代物だ。  
昔から俺は、神らしく静かにしていられるのに、  
善い奴に情けをかけてやりたくてならなかった。  
ところがあとで、どうやら仕遂げられた仕事を見ると、  
俺が智慧を貸さなかったとまるで同じことだからなあ。

ターレス

ところが、海の御爺さん、人は貴老を頼りにしていますぜ。  
貴君は賢者だ、私達を追い払わないで下さい！  
この火を御覧、実際人間に似てはいるが、  
それでも貴君の御助言にすっかり従う気でのすぜ。

ネロイス

助言だと！人間共の世界で、助言が役に立った例が曾てあったかい？  
聡明な言葉もこつこつの耳の中では化石してしまう。  
やったあとで幾度腹を立てて我と我が身を責めて見たところで、  
人民共の身勝手は前々通りで直らんのだ。  
俺はあのパリスにだって、他所者の女が彼(あれ)の色気を  
網で絡めてしまわぬうちに、父親らしく、どんなに戒めてやっただろう。  
希臘の岸に彼は大胆に立っていた、

俺は霊の眼で見たことを云いきかせた----  
風は煙に満ち、紅焔は漲(みなぎ)り、  
棟梁(むなぎうつばり)は燃え、下には虐殺と死と----  
トローヤの審判(さばき)の日は、歌に描き留められて、  
幾千年の後でさえ、知られてもいれば恐ろしくもある、  
老人の言葉があゝ無法者には笑談のように思われたのだ。  
彼はその欲に従った、そうしてイリオスは没落した----  
長い苦難の後にしゃちこぼった巨人の死骸、  
それはピンズスの驚どもにはひどく嬉しい馳走なのだ。  
ウリスだってその通り！俺が前に云いきかせなかったとでもいうのかい、  
キルケの手管も、キュクロープ共の恐ろしさも？  
彼の附決断も、部下共の軽はずみも、  
何も彼もみんな！それが彼奴の役に立ったか？  
散々(さんざん)に揺られ揺られて、ひどく遅くなってから、  
波の恵みで彼は漸く、客待遇(あしらい)のよい岸へ  
送り届けられることになったのだ。

#### ターレス

賢者には、そういう振る舞いは苦痛を与えるでしょう。  
善者は、それでももう一度やって見るものです。  
一分の感謝も、ひどく其の人を喜ばせて、  
千斤の忘恩をすっかり填(う)め合わせて剰りがあるでしょう。  
私共の願いは一通りのことではありません----  
この子が、殊勝にも、成り出でたいと申すのです。

#### ネロイス

久し振りの上にも久し振りの俺の上機嫌を損なうて貰うまい！  
今日はまるで違ったことを待ち受けている日だ----  
俺は娘達をみんな呼んで置いた、  
それは海のグラージェ達だ、ドーリスの産んだ子供達だ。  
オリュンプの山も、お前方の国土も、  
あれほど立ち居のしなやかな、美しい姿を載せてはいまい。  
あれ達は何とも云えぬ優美な物腰で、  
海龍の背からエプツースの馬へ乗り移り、  
世にも柔らかに水と性(しょう)を合わせて、  
水泡(みなわ)さえあれ達を浮かべることが出来そうに見えるほどだ。  
其処に、色あやなヴェーヌスの貝殻車に運ばれて、  
ガラテーが、一番美しい娘が、遣って来る。  
あれは、キュプリスが我々を棄て去ってから、  
パーフォスに自ら女神として崇められているのだ。  
あの優しい子が、相続者として、  
神殿の町と車の玉座とを占有してから久しいものだ。  
あっちへ行け！父親の喜びの日には、  
心に憎悪、口に悪口は禁物だ。  
プロトイスの所へ行け！あの神変者に訊け----  
どうしたら成り出でたり姿を変えたりすることが出来るかと。  
(海の方へ去る)。

#### ターレス

これはまるで無駄な手数だった。  
プロトイスに出逢ったところで、あれはすぐに消えて流れてしまうだろう。  
そうして相手になってくれるにしながら、結局あれのいうことは  
びっくりさせたり戸迷いさせたりすることだけなのだ。

が、そういう助言をお前は聴きたいのだから、  
それをやって見ることにしてこの道を歩いて行くでしょう！  
(遠ざかる)。

ジレーネども(上の方、岩の上にて)。  
遠方(おちかた)より波の国を縫いて  
滑り来と見ゆるは何(な)ぞ？  
風の掟のむた  
白帆の寄り来るがごと、  
姿鮮やかにも見ゆるかな、  
浄められたる海の女子(おみなご)等。  
いざ諸共に岩を降りてむ、  
声さえ此処に聞こえ来ずや。

ネロイスの子等とトリートン達  
われ等が手に載せ、捧げ来るもの、  
君等すべての喜びたらむ。  
ケロネの大なる甲(かぶと)に映えて  
厳しき御(み)姿浮き出で給う----  
神ぞ、我等がかしづき来ぬるは。  
君等、畏(かしこ)き歌を歌え。

ジレーネども  
姿は小さく、  
稜威(みいつ)は重く、  
波に吞まるる者の救い手、  
いと古くより齋(いつ)かるる神々。

ネロイスの子等とトリートン達  
我等カビーレンの神々迎え来ぬ、  
安けき世の祭りせむため。  
この神の聖くしろしめす境には、  
ネプツーンも穏やかに海を領し給わむ。

ジレーネども  
我等は御身に及び難し。  
船の碎けしとき  
逆らわむよしなき御(み)力もて  
御身等、船人を救わせ給う。

ネロイスの子等とトリートン達  
我等三柱を迎えまつりぬ。  
四柱目の神辞(や)み給いぬ。  
宣(のぶ)らさくは----我ぞ真(まこと)の神なる、  
皆に代わりて思い慮(おもんばか)る、と。

ジレーネども  
一人の神他の神を  
嘲り給うこともありなむ。  
人々よただ御恵みを崇(あが)め、  
何にまれ禍津日(まがつひ)を恐れてあれ。

ネロイスの子等とトリートン達

まことはこの神に七柱あり。

### ジレーネども

三柱は何処に留まりておわする？

### ネロイスの子等とトリートン達

我等答えむ術を知らず、  
オリュンプに問うぞよけむ。  
かしこには八柱目の神もやいまして、  
まだ誰人にも思い寄らねども。  
恵みは我等に垂れさせ給えど、  
すべては成り了えまさむにやあらむ。

譬えむものなきこの神々は  
果てなき先(さき)を望ませ給う。  
あこがれに満ちて餓え悩みつつ  
獲(え)られぬ物を願う神々。

### ジレーネども

我等には祈る習いあり、  
日のうち、月のうち、  
何処に神の御座(みくら)ありとも。  
そは報いあればなり。

### ネロイスの子等とトリートン達

我等の誉れは上なく輝く、  
この御(み)祭りをつこうまつりて！

### ジレーネども

古の英雄には  
かほどの誉れ欠けたり、  
何処如何に輝かむとも。  
彼等は黄金の羊の皮獲(え)つ、  
君等は得たり、カビーレンの神々。  
(総唱として繰り返す)。  
彼等は黄金の羊の皮獲(え)つ、  
我等は！君等は！得たり、カビーレンの神々。  
(ネロイスの子等とトリートン達と去り行く)。

### ホムンクルス

あの不格好なものは、私には  
下手(げて)な土器の壺のように見えます。  
ところが賢い人達がそれにぶっつかって  
固い頭を砕くのですね。

### ターレス

こういうのこそ人の欲しがるものなのだ----  
錆がついて始めて古泉の値打ちが出る。

### プロートイス(姿を見せず)。

俺のような年寄りの寓言作者には、ああいうのが嬉しいな！  
愈々変妙なら益々有難い。

ターレス

プロートイスさん、何処に居るのだ？

プロートイス

(腹話法にて、忽ち近く、忽ち遠く)。  
此処だ！いや此処だ！

ターレス

お前の古い洒落は咎めはしないがね、  
併し友達にいい加減な事を言うなよ！  
わかっていらあ、お前は処を誤魔化して物を言っているな。

プロートイス

(遠くよりする如く)。  
さようなら！

ターレス(小声にてホムンクルスに)。

つい近くに居るのだ。一つぱっと光らせてお見せ。  
あいつは魚のように物好きだからね。  
そうして何処にどんな恰好をしてじっとしていても、  
火には誘(おび)き寄せられるのだ。

ホムンクルス

すぐに光を沢山流れ出させましょう。  
併し硝子が欠けて飛ばないように用心して。

プロートイス

(巨亀の姿にて)。  
そんなに優しく美しく光るものは何だい？

ターレス(ホムンクルスを蔽い隠して)。

宜しい！見たけりゃもっと近くで見さして上げよう。  
併しちょっとした手数を面倒がらないで  
人間らしく両足で立った姿を見せてくれ。  
俺達の好意と俺達の意志とによらなければ駄目だよ、  
俺達の隠しているものが見たいんなら。

プロートイス(品よき姿にて)。

世間知りの掛け引きをまだ忘れずにいるな。

ターレス

姿を変えて化けるのが、今でも御前の道楽だな。  
(ホムンクルスの蔽いを去る)。

プロートイス(喫驚して)。

光る一寸法師か！まだ一度も見たことがない！

ターレス

助言を藉(か)りて成り出でたいというのだ。  
あれの話をきいて見ると、  
全く妙なわけただ半分世に出て来たのだそうだ。  
精神上的の資格能力には欠けたところがないが、  
どうも手に掴まれるはつきりしたものがなさ過ぎる。

これまでの所、目方と云ったら硝子だけだ。  
そこであれは先ず体を具えて見たいという訳さ。

プロートイス

お前こそ本当の魔女の倅という奴だな----  
出来る筈でないときに、もうお前は出来ている！

ターレス(小声にて)。

もう一つの方から見ても、あれは難物らしい。  
どうも半陰陽のように思われるからな。

プロートイス

これなら却って旨く行く筈だ。  
あれが年頃になりさえすれば、すぐにそれで間に合うだろう。  
だが此处では大した思案にも及ばない、  
広々とした海の中でお前は遣り出さなくてはならん！  
其処で最初は小さい所から始めて、  
極小さいものを嚙(の)んで嬉しがって、  
そんなにして段々と育って行って、  
それからもっと上手(うわて)の仕事に取り掛かるように仕上げるのだ。

ホムンクルス

此处では本当に柔らかな風が吹いていますね、  
あんなに緑の匂いがする、あの声のいい気持なこと！

プロートイス

そうだろうよ、可哀い可哀い小僧さん！  
もっと先へ行くと、もっとずっといい気持になる、  
あの狭い岬の鼻では、  
空気の爽やかさが猶更何と云いようもない。  
前の方へ出ると、今丁度浮いて来る  
行列がとても近く見えるぜ。  
さあ一緒にあっちへお出で！

ターレス

俺も一緒に行こう。

ホムンクルス

三人連れの珍しい化物行進ですね！

ローズスのテルヒーネス族等、海馬と海龍に騎(の)り、  
ネプツーンの三叉矛(みつまたぼこ)を持ちて。

合 唱

ネプツーンのために三叉矛を鍛(きた)いしぞ我等なる、  
彼そをもて如何なる荒波をも鎮め給う。  
雷(いかずち)の神濃く厚き雲を舒(の)ぶるとき、  
その凄まじきはためきにネプツーンは応(こた)う。  
又上よりは鋸齒(のこぎりば)なす稲妻降(くだ)れば、  
波又波、下より洶(わ)きて潮沫(しおなわ)をぞあぐるなる。  
その間(あい)に身を置きて憂いつつ闘う者は  
揺られ揺られて末遂に底深く吞まれ行く。  
ればこそ彼今日はその杖を我等に授け給いつ、

かくて我等は浮かび遣(さまよ)う、祝日(いわいび)めき、心安けく、身軽く。

### ジレーネども

ヘリオスに身を捧げて、  
晴るる日の幸受くる君等に、  
この時の礼(いや)申す----篤(あつ)くルーナを  
敬いて心奮(ふる)えるこの時に。

### テルヒーネス等

瓢形(ひさかた)の空にます、いとも優しき女の神！  
惚々と聞きしめせ、おん同胞(はらから)の称えらるるを。  
幸あるローズスの島に御耳を借し給え、  
日の神のとわの讃歌(たたえうた)かしこより立ちのぼる。  
彼の神日の歩みを始めて、日既に出ずるとき、  
火と燃ゆる光線(ひかり)の眼もて我等をば見そなわす。  
その山も、その町も、その岸も、その波も、  
彼の神の御心に愜(かな)いて、めでたくも明るけれ。  
立ち籠むる霧もなく、忍びかに這い寄る霧も、  
光のい一線(すじ)微風(そよかぜ)の一吹きに吹き払われて、島は淨し！  
畏(かしこ)き神は己が姿の百(もも)の形に写されたるを其処に見まさむ、  
若人(わかびと)さび、巨人(おおひと)めき、威(いつ)重く、はた和やかに。  
我等ぞ始めなる、我等ぞそれなる、神々の御稜威(みいつ)を  
由ある人形(ひとがた)に造り上げしは。

### プロートイス

勝手に歌わして置け、勝手に自慢をさして置け、  
太陽の聖い生命(いのち)の光にとっては  
死んだ作り物なんぞは笑談に過ぎぬ。  
あの手合いは融かして造って、厭きることを知らない。  
そうしてそれを青銅で鑄(い)ると、  
それが一廉のもののように思うのだ。  
この高慢な連中がつまりはどうだというのだ？  
成程神々の像は大きく立ってはいた----  
が、それを地震が粉碎(ふんさい)してしまった。  
それはもうとっくに又融かされている。

下界のいざこざは、どんなにしたって、  
どこまでもただ無駄骨折りだ。  
生(いのち)には波の方が余計役に立つ。  
お前を永遠な水の世界へ連れて行くのは  
プロートイスの海豚(いるか)だ。(姿を変ず)。  
これで好い！  
彼処でお前の運が旨く開ける、  
俺はお前を背中に載せて行って、  
渡津海(わたつうみ)と縁を結ばせて遣るぞ。

### ターレス

殊勝な望みに従って、  
造化を抑(そもそ)もの始めから遣り直して見るが好い！  
手早く働く心構えをするのだぞ！  
其処でお前は永遠な規範に従って動き、  
幾千ともない形を通して行くのだ。  
人間になるまでには大分時がかかるぞ。

(ホムンクルス、プロートイスの海豚に騎る)。

#### プロートイス

霊体として、湿った遠い所へ一緒に来るのだぞ。  
其処でお前はすぐに長さにも幅にも生活を広げて、  
思いのままにこの辺りを動き廻れるのだ。  
ただ上の仲間にはいろいろとして焦るなよ。  
人間になってしまうと  
お前はもうすっかりお仕舞いだからな。

#### ターレス

その時の模様次第さ。その時代の  
優れた人となるのも随分結構なことだ。

#### プロートイス(ターレスに)。

お前のような性(たち)の人間という訳か！  
そんなのは猶暫くは持つ。  
蒼白い幽霊どもの仲間に  
お前を見かけるのも、もう何百年以来のことだからな。

#### ジレーネども(岩の上にて)。

雲の片(きれ)連なりて輪をなすは何の輪ぞ、  
月を周りてかくも濃き暈(かさ)なすは？  
鳩ぞ、そは。恋に身を焦がしつつ  
その翼、光にも似て真白なる鳩ぞ、そは。  
パーフォスこそそを送りおこしつれ、  
姫神の御(み)使い、思いに燃ゆるその群鳥(むらどり)を。  
我等の祭り、今満ち足ろう、  
曇りなき歓喜、隈なくぞさやけき！

#### ネロイス(ターレスに歩み寄りつつ)。

夜道に行く或る旅人は、この月の暈を  
空気の現象だと云うたそうな、  
が、俺達のような霊仲間は、まるで意見が違ふ、  
そうしてそれこそ唯一の正しい意見なのだ。  
それは鳩だ。それが俺の娘の  
貝車の旗を護衛して、  
古き代に学び得た  
一種特別の不思議な飛び方をするのだ。

#### ターレス

わしも亦それが一番いいと思いますね、  
優れた人の気に入ることなら。  
何しろ静かな、温かな巢の中に、  
一つの聖なる物が生きて籠もっているのですから。

#### プシュレス及びマルゼス

(海の牡牛、海の犢(こうし)、及び牡羊に乗りて)。  
キュペルンの荒き岩室の中に、  
海の神にも塞がれず、  
とわの微風(そよかぜ)に吹きめぐられ、  
いと遠き上つ代と変わりなく、  
静けく明らかなる楽しみをもて、

我等キュプリスの車を蔵め持ちたり。  
さて優しき波のゆきかいに、  
さやさやと夜の囁くとき、  
新しき輩(ともがら)の眼をよきて、  
最(いと)わしき少女をぞ導き来る。  
我等音なくいそしむ者は、怖れじ、  
鷲をも、翼ある獅子をも、  
十字の印をも、月の形(なり)をも。  
又、玉座(みくら)に即(つ)く者何をなすとも、  
かたみに替わり、動きさやぎ、  
かたみに逐いやり、打ちて殺し、  
畑(はた)も都も毀(こぼ)ち去るとも。  
我等、未かけて、ただ  
はしき我君(わぎみ)をぞかしづき来る。

### ジレーネども

軽らかに動き、ほどよく急ぎ、  
車のめぐりに、圈に圈を描き、  
時に又行(つら)と行と入り乱れて、  
くちなわす列をうねり、  
近づき来(こ)よ、逞しきネロイスの子等、  
憎からずあららかに、健やかなる女(おみな)達。  
かしづき来(こ)よ、まぐわしきドーリスの子等、  
ガラテーを、母の似姿を。----  
神々に似て見るに威あり、  
死にせぬにふさわしき姿ながら、  
猶人の世の女子(おみなご)めきて、  
心を誘うたおやかさなる。

### ドーリスの子等

(群れを作りてネロイスの前を過ぐ。すべて海豚に乘れり)。  
ルーナよ、光と陰とを我等に貸させ給え、  
この花に似し若者等をさやかに照らし給え。  
我等、願事(ねぎごと)ありて、はしき夫(つま)等を、  
父の御(み)前に率いまいつ。  
(ネロイスに向かいて)。  
岸囓む波の怒れる牙より  
我等の救える若者ぞこれ。  
葦と苔との上に臥(ふ)さしめ、  
温めて光の世に返しぬ。  
そを今熱き接吻(くちつけ)をもて  
まごころ深く我等に報いつ。  
優しき者等をいつくしみ見よ！

### ネロイス

その一挙両得には大した値打ちがあるね----  
人を恵んで、一緒に自分も楽しむのだから。

### ドーリスの子等

父よ、我等の業を褒めまし、  
身に獲(え)し楽許し給わば、  
夫等を死にせず、とわに若き  
此処に堅く寄らしめ給え。

### ネロイス

お前達は美しい獲物を喜びとして、  
その若者を成人(おとな)に育て上げるがよかろう。  
併しツォイス一人だけが許すことの出来ることを、  
この俺が授けてやるわけには行くまい。  
お前達を揺すったりゆさぶったりする波は、  
恋をも不易にはさして置かない。  
好いたらしさでゆさぶり合う時が過ぎたら、  
穏やかな心であれ等を陸へ送り返すが好い。

### ドーリスの子等

めぐしき童等、床しさやまねど、  
悲しき別れぞ避くるに由なき。  
とわの誠をわれ等は願えど、  
神々はそを許し給わず。

### 若者等

末かけてかくいつくしまなむ、  
心すぐなる海士(あま)の子我等を。  
かかる幸にはいまだ逢わねば、  
優れる願い身になきものを。  
ガラテー、貝殻の車に乗りて近づく。

### ネロイス

御前だな、可哀い子！

### ガラテー

おお、おとう様！嬉しいこと！  
海豚よ、停まってくれ！あの眼が私に身動きをさせない。

### ネロイス

もう行ってしまった。圏を描くように  
はずみを打って動きながら、行列は過ぎる。  
内に動く心からの感動もあれ等は何とも思わないのだ！  
ああ！俺も一緒に連れて行けば好いに！  
併しただ一目だけの嬉しさでも  
まる一年の埋め合わせになる。

### ターレス

栄(はえ)あれ！栄(はえ)あれ！何度もおまけに！  
盛んに嬉しくなって来た、  
美と真とが骨身に徹する.....  
何もかも水から湧いて出たのだ！！  
何もかも水で持っているのだ！  
大洋よ。我々のために永遠に主宰してくれ。  
お前が雲を送らなかったら、  
藪の小川を恵まなかったら、  
川をあちこちとうねらせなかったら、  
大河を出来(でか)してくれなかったら、  
山も野も世界もどうなっていようぞ？  
お前こそ、ぴちぴちした生(いのち)を保たせてくれるものだ。

反 響(登場者全員の合唱)

お前こそ、ぴちぴちした生の湧き出す泉だ。

ネロイス

行列はゆらめきながら、遠くの方で又向きをかえるが  
もう眼と眼を見合わせる処までは帰って来ない。

鎖の圈(わ)を長くのばして

祭りらしい姿を整えようと、  
無数の群れがうねりくねっている。

だがガラテアの貝の玉座は、  
ちよいと見える、そら又、ちよいと見える。

それは丁度星のように、

多勢の中で輝いている。

あの可哀い者は、群衆をわけて光っている、

あんなに遠くなっても、まだ

明るく淨くきらめいて、

いつまでたっても近く、真(まこと)に。

ホムンクルス

この恵みある湿(うるおい)の中では、  
何に光をあびせて見ても、  
みんな心憎く美しい。

プロトイス

この生の湿の中で、  
お前の光も始めて、輝いて  
すばらしい音(ね)を出すのだ。

ネロイス

あの群れの真ん中で、何という新しい秘密が  
我々の眼に自分を啓(ひら)いて見せようとするのだろうか？  
貝車のほとりで、ガラテアの足の傍で炎をあげるのは何だ？  
それは勢いよく燃えたつかと思うと、又可憐になり、又うっとりとなる、  
恋の脈搏を身に感じているかのように。

ターレス

あれはホムンクルスです、プロトイスが連れ出したのです。.....  
男らしいあこがれの兆(しるし)があれです、  
悶えて声を立てるうめきも聞こえるような気がする。  
あれはあの輝く玉座に触れて碎けるでしょう。  
今、燃え立つ。今、光る。もう流れて散ってしまう。

ジレーネども

立つ波を照らし浄むるは如何なる水の怪(あやし)みぞ？

波と波と相うちて光りて碎くる。

そは赫きて、ゆらめきて、彼方へぞ照り行く。

夜の潮路に、行く物の姿輝き、

すべての周(まわ)りに火は流れめぐる。

いざしろしめせ、エロス、万物を始めし神！

栄えあれよ海！栄えあれよ波、

畏(かしこ)き火こそ汝(いまし)を繞(まと)れ。

栄えあれよ水！栄えあれよ火！

栄えあれよ、稀なる奇(くす)しき業！

総員一同

栄えあれ、心の優しき風！

栄えあれ！奇しき事多き岩室(いわむろ)！

此の世なるものすべて祀(まつ)らむ、

地水火風の四つのすべてを。